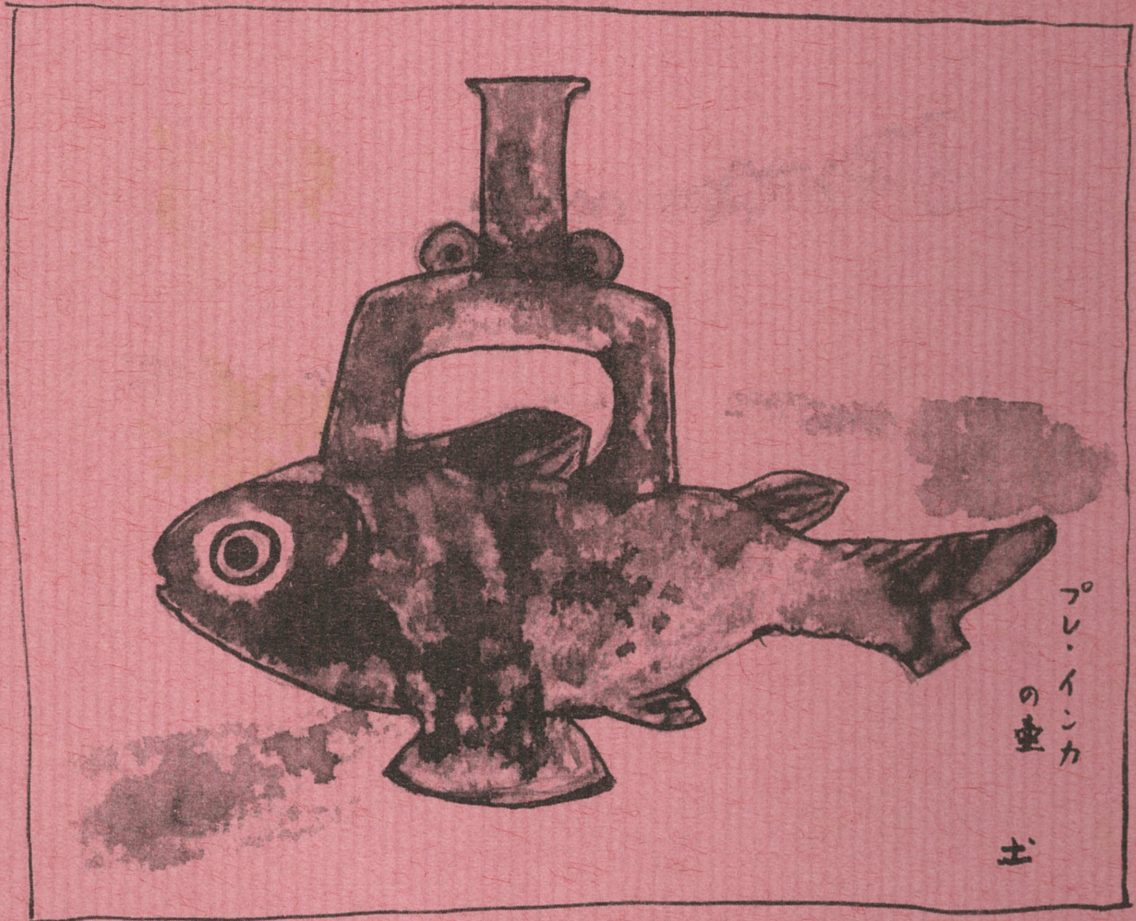




第七号

# 漕魂



1982

長崎大学医学部漕艇部

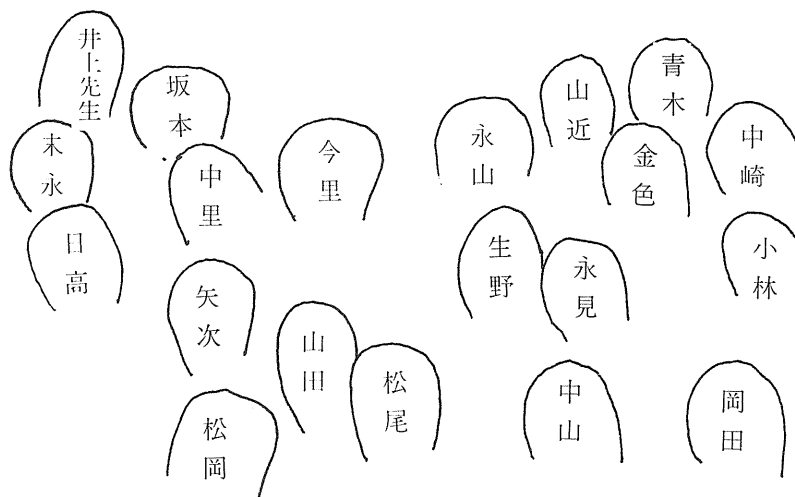
相手クルーには勝てるが、それには相当な困難が伴う、と感じた時、クルーは最良の出来栄えを達成することができる。相手は弱いと評価した場合には出来栄えは低下してしまう。勝てそうにないと推定した場合も同様である。恐怖感（多分われわれは勝てそうにない）と希望感（しかし勝てるかもしれない）との間に漂っている状態は、競技者にとって、成功に導く最大の可能性をもたらす。

カール・アダム（1912—1976）

1960年代に世界を席捲した西独クルーの  
コ  
ー  
チ

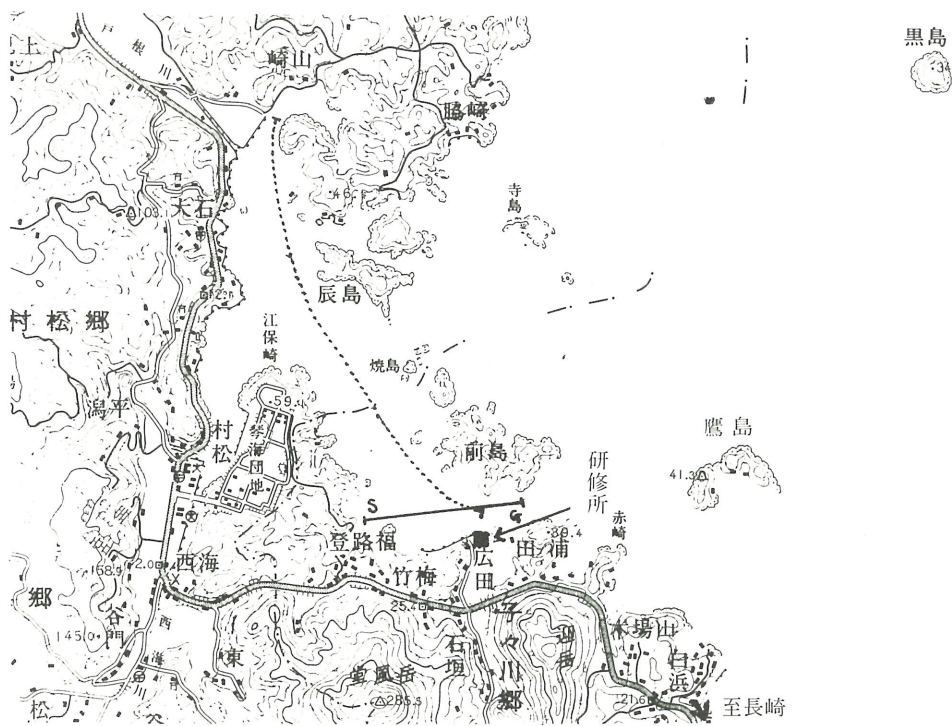


昭和56年8月 西 医 体 (於 琵琶湖)





昭和56年 8 月 全日本学生選手権  
於 戸田オリンピックコース



子々川漕艇場 (13ページ参照)

目次

巻頭言

所感・・・・・・・・・・漕艇部長 高久 功・・ 1

寄稿

忘れがたき・・・・・・・・・・宮城 重信・・ 2

船旅の思い出によせて・・・・・・・・尾崎 正若・・ 3

クラブを離れてみて・・・・・・・・難波 裕幸・・ 5

OB紹介・・・・・・・・・・ 6

卒業にあたり・・・・・・・・山近 史郎・・ 9

子々川漕艇場の紹介・・・・・・・・ 13

昭和五十六年度行事結果・・・・・・・・ 13

昭和五十六年度大会成績・・・・・・・・ 14

部員 雑感

アメリカとメキシコの旅・・・・・・・・倉 富彰 秀・・ 27

症例報告・・・・・・・・・・末 永俊 郎・・ 31

後輩諸君へ・・・・・・・・・・中 崎 隆 行・・ 32

五年前のある一日・・・・・・・・永 見 耕 一・・ 33

無題・・・・・・・・・・永 山 雄 二・・ 34

老婆心ながら一筆・・・・・・・・松 尾 圭 一・・ 34

大袈裟に云ば・・・・・・・・今 里 雅 之・・ 37

祈念・・・・・・・・・・小 林 誠 博・・ 37

第九・・・・・・・・・・日 高 真 真・・ 38

免疫学的ほれたらうわきは  
できませんでした説・・・・・・・・松 岡 直 樹・・ 38

酒とボート・・・・・・・・・・矢 次 登 登・・ 39

只管打漕・・・・・・・・・・高 須 勝 也・・ 39

艇速をもつと上げる為に・・・・・・・・中 里 貴 浩・・ 40

戸田遠征に参加して・・・・・・・・中 山 大 介・・ 42

レガッタとキャンパス・・・・・・・・山 田 稔・・ 44

気分は・・・・・・・・青 木 幹 弘・・ 44

一年を振り返つて・・・・・・・・金 色 正 広・・ 44

ボート部一年生を終えて・・・・・・・・坂 本 章・・ 45

昭和五十六年度行事番外編・・・・・・・・ 46

昭和五十六年度会計報告・・・・・・・・ 47

昭和五十六年度医学部漕艇部OB会収支決算報告・・・・・・・・ 48

昭和五十七年度年間計画・・・・・・・・ 49

長崎大学医学部漕艇部OB会会則	50
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	51
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	52
長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿	54
長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿	59
編集後記	61

所感

漕艇部長 高久 功

「漕魂」も第七号を迎えるところとなつた。先輩諸氏の御援助、部員各位の御努力のたまものと、心から御礼申し上げます。

ここ何年か、シエルフオアにより全国学生レガッタに出漕することとなつた。トップレベルに達したわけではないが、毎年いくらかずつでも進歩が見られ何よりである。

私の母校の東北大学は、名実ともにトップを維持していたが、昨年は優勝することが出来なかつた。漕艇部長をしている石田教授は小生の同級生であるが、その話によると言いわけのため日夜大変だつたそうである。私の場合、幸いそういう事で責められたことがないのは有難いこともある。

最近考えることに、わが大学の漕艇部と医学部の漕艇部の間にもつと一体感があつたらということがある。歴史的にも、経済的にも、異つた途をたどつてきたものであることはよくわかるが、これからの艇庫の新設、また新艇の建造といつたことを考えるなら、両者の共通した努力がまさに必要なのではないだろうか。

こういう事は、本来大学の予算によるべきことであり、その手続き上、概算要求と云つた何年にもわたる要請が必要である。このためには、学内全体のオアズマンの集中的な努力が必要である。

わが漕艇部も、近く出来るであろう歯学部漕艇部の問題を含め、

長崎大学全体のポートマンの輪を拡げるとともに、各学部の独自性も高めるといふ展望に入らなければならぬのではなからうか、妄言多謝します。



## △寄稿▽

### 忘れがたき

漕艇部顧問 宮城重信

何はさておき私の一生で「忘れがたきことは、無数の人間を無残に殺傷したあの第二次世界大戦である。

昭和十六年（一九四一年）十二月八日午前六時すぎ、同盟通信（今の共同通信）長崎支局の小倉記者（故人）から、当時、傷痕（い）軍人小浜温泉療養所長をしていた私に電話がかかつてきた。真珠湾攻撃とマレー半島上陸作戦の驚くべき知らせであつた。そのときの私の心中は「やつたなア」の気持ちだつた。

### 第二次大戦の惨劇、肌身に

それからの大本営の発表は、大勝の連続だつたが、一年、二年目になると、アッツ島、マレー半島、ビルマ、ニューギニア、サイパン、比島方面と、つぎつぎに敗色濃厚で「大本営発表」の戦果とは逆であつた。やがてB29が空襲。敵艦載機は白昼、近海小型漁船に對しても低空襲攻撃し、橘湾（千々石湾）でも、われわれの目前でみせつけた。都市への空襲はますますひどくなり、日本全域、特に太平洋沿岸は、敵の進攻に備えるに急ピッチであつた。食糧はもちろん一切の物資が底をついた。医療衛生材料も例外ではなく、現代の若人たちには、当時の実相は、全く想像もつかないだろう。

「八月六日、広島市に特殊爆弾落下」は、風のたより。そして三日目の八月九日午前十一時ごろ、小浜町の肉屋に珍しくも肉をみつ

け、これを求めて受け取るとたん、とてつもない爆音が天にひびいた。近くに爆弾が落ちたと思つて、急ぎ横壕（ごう）に逃れようとしたが、あたりはまた静かになつたので、海岸へ出て空、海を見ると、橘湾を前に、約三十 Km 西方の矢上連峰の頂上を真赤な炎が、はつて消えたのである。長崎市の上空には、異様なキノコ状の雲が浮揚している。B29らしい一機が西北の大村方向へ飛び去り、一個の落下傘らしい物体が、ゆつくりと矢上付近に降りてくる。

この物体について、戦後、末吉岩十氏（終戦時、大村海軍廠長・中村中将付き将校、現在諫早市在住）から直接説明を受けたので以下記してみたい。

### 想像を絶する被爆長崎の街

この落下物体は径十〜三十 cm のアルミ製円筒で、落下地点は北高来郡江ノ浦か隣の田結矢上付近の山中であつた。海軍の方々により諫早市四面橋下流の菱屋旅館近くに運ばれ、中から一通の手紙が出てきた。アメリカの原子物理学者から東京大学の嵯峨根教授へあてたもので、中村中将が翻訳した。文面はほぼ左の通りだつたのと。

「我々科学者は、原子力を平和的に利用すべく君とともに研究してきたが、我々の目的とは異なる我々の最も恐れる戦争に使用されることは誠に残念である。君は一日も早く天皇に戦争を中止するように進言せよ。」これと同じ円筒は、このほか二、三個落とされ、そのうち一個は長崎市の原爆資料館に保存されているはず。

八月十一日午前七時ごろ、私はわずかばかりの医療材料をもつて車で小浜を出て、途中敵機飛来のなか待避を繰り返しながら日見トンネルに入ったのが午前十一時すぎ。トンネルを出て目に入つた長崎の街の姿は想像を絶する惨状だつた。

## 心が痛む学生三人の被爆死

この悲惨なさまは、既に多くの記録にあるとおりで、ここには省略するが、また市内の往來は敵機の襲來で危険だった。そのため比較的行きやすい伊良林国民学校で被爆者の治療にあたつたが、持参した材料は立ちどころに尽きてしまつた。校庭には数多くの死体、水を求める傷者の声——。今もなお耳もとに残っている。

このころ、小浜の私の住まいには、長崎から二人の学生がたどり着き、いま一人は夜遅く私の車で長崎から連れ帰つた。この三人（二人兄弟）は、遠くにいるのを私が無理にすすめて長崎の学校に受験させたものだつたが、悲しいことに三人とも次々にこの世を去つていつた。私の好意は、すべて裏目に出たのである。彼らの親や肉親に対し、私の相すまない気持ちには、生涯続くのである。

### 無念さから人類平和念願へ

八月十五日、療養所の食堂に入所中の傷痍軍人、現役の海軍兵を集めて天皇の終戦宣言のラジオ放送を聞いた。降伏らしい意味にとれたものの音波が正常でなく、はつきりしなかつたが、残念さで一同、言葉も出なかつた。後日、ポツダム宣言の内容を知り「無念、残念。男の拳骨は」と自ら握りしめたのである。このときの気持ちには確かにそのようなものであつた。

ところが、やがて戦争のもたらした残虐さ、広島、長崎の原爆被爆の悲惨さ、沖繩戦線の苦闘、戦争で肉親を失つた方々の心の中一が次第にわかつてきた。第二次世界大戦の日本の戦死者、軍人百六十万、非戦闘員六十六万人、交戦各国の戦死者総計二千二百万、それに負傷者三千四百万人と報ぜられている。これらの肉親、近親者は数億にのぼるだろう。

人類の歴史をひもとくとき、戦勝側が勝利の喜びを味わうのは、その時だけ。やがて敗者となるコースを繰り返している。戦争で勝つて永遠に真の幸福をかちとつた例をみない。かくて私の人生観、世界観は一変し、人類平和への念願となつた。

最近の国際情勢は、かつての戦国時代を思わせるように危険きわまりない。一九八二年の新春を迎えて、私の待望するのは、「忘れがたきこと」を今こそ再認識して、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世のとなえる人類平和、相互扶助へのリーダーシップをとれる知的科学的頭脳を持つ国際的な巨大な政治家の出現である。

——このエッセイは長崎新聞二月五日夕刊に掲載されたもので、先生の御了承のもとに転載させて頂きました。——

## 船旅の思い出によせて

第二薬理教授 尾崎 正 若

もう随分前のことである。二年間の米国留学生生活を終えての帰途は、生來の船旅への憧れから、大西洋を船で渡り欧州を経て帰ることにした。貯金を始め、計画を練つた。オランダの客船マースダム号（一万五千トン）の予約が出来た時は物凄く嬉しかつた。大げさに言うと少年の頃からの夢が叶えられる様を気がした。

出港の日、ニューヨークの港では親しい友人や留学生らとテープを投げ交し、別れを告げた。汽笛そしてどらが鳴り、船は静々と岸壁を離れた。マンハッタンと自由の女神像の間をぬける頃は船脚も

次第に速められ、ついで前進全速である。春まだ浅く、もやがかかつていたと思う。

さて、それから一週間足らずの航海でロッテルダムに入港するまで、食卓の席はくじ引きで決められた。我々の向い側の席は久しぶりに故国の土を踏むドイツ系の老婦人で船内で大変親しくなつた。殆んど毎晩、夕食後のコンサートなどの後に、深夜までトランプをして遊んだ。

毎朝、美しく印刷されたメニューが配られ、その日の食事内容が知らされた。朝から多種のチーズ、サラダ・・とご馳走は出るし、船長招待のパーティーもあつた。夜は航海中、免税で割安のウイスキーが飲めた。

昼間、デッキに出て見ると、黒潮とは違つて、かなり緑色がかつた海、沖合いからよせて来る大きなうねりの中に、エンジンは快音を響かせ、白いマストの遠く近く、かもめが何時までも船を追つて来た。

先ずは穏やかな航海が続ぎ、ライン河をさかのぼる頃、色紙を敷きつめた様に、赤、黄、そしてピンクなどのチューリップが一面に咲くお花畑が風車の間に見えかくれしていた。一週間、海許り見て来た目にはいやにこれが鮮やかで綺麗に見えた。下船すると、街の通りを忙しげに自転車で行き交う人々が印象的だつた。運河が多く色々の形をした橋がかかつていた。

近頃は航空機による旅行が手取り早く行なわれ、なかなか船に乗る機会に恵まれないが、先立つて宮崎での学会から引き続き東京に行く必要がある、日向から川崎まで大型フェリーに乗つた。ブルートレインの寝台をとるより返つて速い位で着いた。

夜半、甲板を散歩し、洋上の空気を一杯に吸い乍ら、遙かに遠く明滅する燈台の灯も珍しく、一夜明けると富士山を海上から眺め、城ヶ島お台場跡の沖を通ると既に東京湾である。

話を変えるが、先週ドイツ映画「Uボート」を見た。同じ航海でも全く目的を異にし、戦争である。何週間にもわたる索敵の後に、ついに敵タンカーを発見し、魚雷で仕留めたが、駆逐艦に見付かり、超短波でUボートが潜んでいる位置が確かめられると、執拗な爆雷攻撃を受ける。電燈の硝子は紛々にとび散り、真暗になるが、何とか切り抜ける。ついで、ジブラルタル海峡を潜らず、海上を素早くのり切ろうとするが、矢張り、敵に発見され、潜航する。攻撃を受け、手痛い機関故障を起し、一部バッテリーまでやられる。総員、酸素吸入をし乍ら、二十時間にも及ぶ海底二百六十メートルでの修理作業、負傷者は出血し、息も絶えだえ、悪戦苦闘そのものである。やつとのことで最後の空気タンクを噴射し、海面に出ることに成功、勇躍母港に帰り着く。歓喜したのも束の間、敵機の空襲を受け、艦長もろとも殆んど全員戦死し、艦また港内に沈没する。全くやり切れない気持ちにさせられた。

真に迫る描写の連続で、撮影の苦勞が偲ばれた。その辺の茶番劇とは凡そスケールも内容も違う。それにつけても、人と人が憎しみ、殺し合う、「戦争」はもうたくさんである。

魚雷で炎上しているタンカーが、なかなか沈まないを見て取つたUボートは又新たに魚雷を発射し、命中する。驚いたことに未だタンカーに生存者が残つていた。海に飛び込み、救いを求める声が、浮上してこの光景を見守るUボートの艦員にも聞えて来るが、この時救助をしない。見殺しにするのである。第一味方の艦隊も炎上中

のタンカーの船員を見捨てて去つた後の事でもある。こんな残酷なことは勿論戦争の時に限られて欲しい。我々一人一人は心身ともに健全である必要がある。戦争をやらぬことにする。まともな精神は其所に宿るであろう。誰もが平和で幸福な日々が続くことを念願しているに違いない。私は今、平和裡にあることを心から感謝し、又何時の日か穏やかな航海が出来るであろうことを祈念しながら、このとりとめもないペンをおくことにしよう。

### クラブを離れてみて

五六年卒 難波裕幸

卒業して一年目となり、時おり、ボート部のたよりが届く。なつかしいと思う反面、もう過ぎ去つた思い出、めんどくさと思うのは俺だけだろうか。冷たいと言ひなかれ、そんな風に考える薄情な先輩もなかにはおるんだと認めてほしい。あらためて関心を持つてくれと言われても、日常の雑事に追われる毎日では、なかなか思いだせず、他の悩み事を優先するのが実情だ。特に俺の場合、ボート部に関しては、離れて今、思いかえしても決していい思い出ばかりじゃない。が、少なくとも何でも美化する人間にはなり切れない。かえつて嫌な思いが、おもはゆく浮んでくることが多い。未だに心の中で整理のつかぬ重荷になつてゐる面がある。しかしよく考えてみると、そんなふうに、きびしく過去を思いかえす人間は何をやつても同じように思えるのかも知れない。逆にそれだけ俺にとつてボート部は大きな存在であつたのだろう。そして考えさせられる場であ

つたのだろう。肉体をいじめ、きたえる場であるとともに思索の場だつたのだろう。ボート部が、多くの仲間たちの考え方にふれさせてくれ、考える場を与えてくれたのちがいないと思う。

今の部員の中にもボート部を通して、イロイロ考え抜いている者がいると思う。あたり前だが各人いろんな考え方をしていると思う。中には、クラブをやめたいと考える者もいるだろう。そうした考えの善悪を決めることなど誰もできるものではない。ただクラブにとつて、そういうことを気軽に話し合える雰囲気、場をつくりあげることがはしてほしいと思う。そして各意見を批判することなく尊重してもらいたい。その上でクラブのあり方、方針を決めていつてほしい。難しいことだと思う。しかしクラブという集団につきまといつて宿命みたいものだ。今年は今里がキャプテンをやるといふが、彼はそれができる男だと大いに期待している。

余談だが、仕事の仲間に「君は大学の時、何のクラブに入つていたね」と問われて、「ボート部です」と答え、その後、「今、県で一位なんですよ。」と言えるのは、俺にとつて最高の喜びの一つとなつてゐる。

△ O B 紹介 △



石橋盟士 先生 昭和三十年卒  
現在市内中園町で石橋整形外科開業。

先生は、昭和二十四年、新制長崎大学に一期生として入学されました。教養時代は商高の近くの寮で過ごされ周囲の経済学部生とともにボートを漕いでおられたそうです。

先生方が漕いでおられたのは幅の広いインリガー固定席のシックスで出島の近くに係留されていたのですが、真鍮製のクラッチ部分や竜骨等がよく盗まれたそうでした。終戦直後の世情がしのばれます。海開きの前にねずみ島で合宿をされ、はるばる伊王島まで漕がれた事もあるそうです。そして今では考えられない事ですが、浜町から賑橋の辺までボートを漕いで行く事ができたと話して下さいました。学部に進まれてから、女神の検査所の近くに沈んでいたシックスを木谷先生達と引き上げ、木谷先生と二人で、水を汲み汲み、浦上川を上り、医学部へ、それから時津へと馬車で運ばれたそうです。しかし、「時津の艇庫に格納したのだが艇がぼろぼろで、ほとんど漕げなかつた。」とおつしやつておりました。



以上、お忙しい診察時間に五十分余りも時間を頂いて伺ったものの一部です。緊張しきつている私たちに先生は終始気さくに、ボートのなれそめから別れまでをお話し下さり、最後に「がんばつてほしい。たまには酒でも飲みに行つしやい。」と部員一同に御言葉を頂きました。

大須賀 浩 先生 昭和三十年卒  
現在市内弁天町で大須賀医院開業。

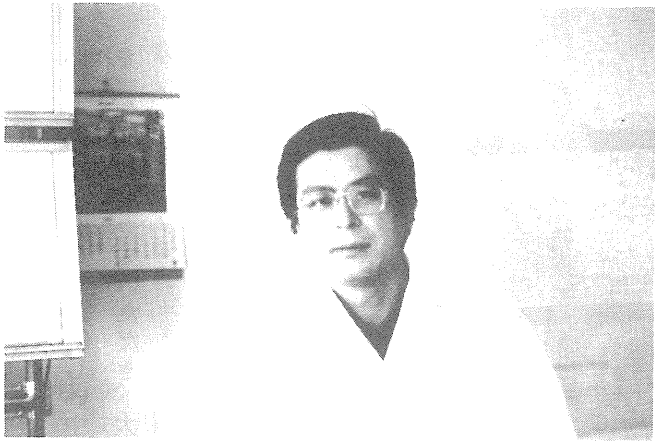
先生は、旧制長崎中学時代から、海がお好きで、木谷先生と一緒に、長崎港で、ボートをよく漕がれました。その後、医学部に入学されたからも海に親しまれ、御自分の舟で、よく釣りに出かけられたそうです。木谷先生達が、長崎港口にあつたボートを引き上げられた際にも、艇の修理をして下さいました。

先生は多趣味な方で、現在も、釣りをはじめ、磁器、草花、骨董等に親しんでおられます。私達が伺った時も、古伊万里の沈香、韓国の香炉等について、色々とおもしろいお話を聞かして下さいました。先生のお人柄が偲ばれて、まことに気持ちのよいインタビューができました。

最後に、私達後輩へは、「やはり、試合に勝つてほしい」と励ましていただきました。

川口昭男 先生 昭和五十一年卒  
第二薬理学教室

先日、済生会病院に、宿直をさ  
れている川口先生を訪ね、ボート  
部にまつわる思い出をお話しいた  
だきました。



僕たちのボート部の直接のルー  
ツは、昭和四十七年頃、丹羽先生、  
川口先生、神田先生方によつてつ  
くられたものです。当時は、経済  
的な面でも、恵まれず、県漕艇協  
会からナツクルフォアを借り、オ  
ールは、木谷先生に買っていただ  
いたものだったそうです。資金の  
足しにするため、花見が終わつたあとの平和公園や、原爆落下中心  
地で、空ビンを集めたり、あさを掘つてきて、長大祭で売つたり

したそうです。しかし、酒豪のそろつていたボート部は、無けなし  
の金も酒代に消えていたということです。やがて、山口先生が、県  
医師会長その他、先生方を紹介して下さり、丹羽先生方の働きかけ  
により、初めて、医学ボート部所有のナツクル、シエルを買つたそ  
うです。

川口先生が、ボート部に入られた動機は、ひとこと言えば、根  
つから海が好きだったということのようです。当時は、今のボート  
部に比べるとかなりのどかであつたようです。皆が他に雑用をもつ  
ており、束縛されるのが嫌いな方ばかりで、練習は、手のあいた人  
たち、二、三人でされた事もあるそうです。でも、かえつて、こん  
なにのんびりしていたため、長続きのだろうとおつしやつて  
いました。思い出に残る試合は、ある年の県漕でした。ろくにオー  
ルもそろわず、まっすぐに進んでいるかどうかもわからない頃と、  
おつしやつていましたが、出漕クルーは、田中先生、川口先生、吉  
良先生、神田先生でした。試合前日が、ものすごい豪雨で、つき  
り、試合は、取りやめだと思ひ込み、朝まで宴会をされていたそう  
です。ところが、当日は、うそのように、からつと晴れ上がつてし  
まいました。慌てた医学部クルーは、アルコールを抜くために、ひ  
たすら走り、午後の試合まで、原っぱで大の字になつて眠っていた  
そうです。試合結果は、当時勇名をはたせた艇友会に勝つたのです  
が、これは艇友会クルーのストレッチャーが壊れ、二人で漕いだた  
めだったそうです。

今のボート部への御希望は？との問いに対し、「皆、本当によく  
頑張ってくれて嬉しい。人を大切にすることを、ボート部を通じて  
学んでほしい。ボートという同じ目標をもつて集まっているのだけ

ら、協力していいクラブにしてほしい。」と答えられました。

紙面の都合で、多くは載せられませんが、この他にも、医学の専門的な話をわかりやすく説明していただいたり、川口先生の女性観をお聞きして、楽しいひとときを過ごすことができました。又、いつもの事ながら、お忙しい中、ビールを出して下さいました。夕食まで気をつかっていただき、大変、感謝しております。



山 近 史 郎 修猷館高校卒

懐古趣味は性格的にあまり好きではないが反省の意味を込め振り返ってみたい。

甘くない厳しいスポーツがしたいと思ひ小村さんに誘われ六年前ポート部に入部した。当時は、学Ⅱで主将の出口さん、学Ⅰの小倉さんを始め、十人程度が主で少ないながらもアットホームな感じだった。そして二年前、一年生クルーが、西医体で準優勝したことを知った。よく飲みにも連れていっ

てもらい、末永達とがむしやらながらも楽しくやつていた。飲んで騒いでいる時も常にポート部談議が中心だった。先輩達は、クラブのことを心から思っているんだとつくづくその時感じた。

五月頃だつたらうか。なじみのスナック「勝馬」で学Ⅰの井上さんに「正直いつて、ポート部は今、綱渡りなんだよ。」と聞かされた。入部して間もない自分にとつて、その時はピンとこなかつたが、それ以後ずつと心に残っていたのは事実だつた。その頃はOBの方々も、木谷先生、石橋先生達のように、以前に活躍されていた先生方

や、ポート部を復活させた丹羽先生達と、とりわけ多い方ではなかつたし、むろんOB会も存在しなかつた。現在の様に寄附も思うように集まらず、運営も大変であつたと思う。部誌も現在の様に諸会社から広告料を頂き、後輩の松尾の「大村活版」による立派に印刷されたものではなくガリ版によるもので、部員みんなで時間をかけ、力を合わせて作つたものだつた。(その意味でも一層心を込めて書かねばと痛感する)当時、学Ⅳの川口さん、田中さん、神田さん、堤さん、石川さん達を中心として、学Ⅱ、学Ⅰ、教Ⅱの先輩達は実にしつかりとクラブを支えて下さつたものと、今、改めて感謝する次第である。

五月の通い合い合宿を経て、夏合宿は本当に厳しいものであつた。合宿前に「夏合宿はものすごく厳しいぞ。」とよく谷川さんに言われた言葉に震えながらも、「夏を過ぎると見違える程たくましくなっているよ。」という小村さんの言葉に厳しい合宿というものへの憧れを抱いたものだつた。合宿中は毎日のように田中さんや堤さんに一年生クルーのコックスをしてもらい、厳しく鍛えられた。乗艇前布団から飛び起き、海辺に着替えて立つている田中さんの姿を見た時は、正直なところ気が重くなつたものだつた。しかし、その厳しい練習の中で「そうだ、その調子だ、だんだん良くなつてきたぞ。」という言葉には、厳しいながらも暖かさを感じ、苦しいながらも一層力が入つたものだつた。あの頃、先輩方から厳しく鍛えられたことは現在でも脳裏に焼きついていて、すばらしい思い出として残っている。体はへとへとながらも部員で作つた飯や風呂は、この世で最高のものだつた。当時教Ⅱの谷川さん、難波さんとは、特に教養生同士で飲んだり、旅行したりしてお世話になつた。



先輩達のお世話になり、がむしやらにやつてきた教養一年が過ぎ、二年になると永山ら新人部員が八人入ってきた。予想以上に入部してきたので本当にうれしかつた。今まで会得したことを先輩達に伝えていこうといつた色んな意味での責任感が少なからずわいてきた。

教養練習、そして一緒に飲んだりして後輩とのつながりというのも大切だと思つたしすばらしいものだと思つた。特にシーズンオフに教養生で連日子々川で、シエル「雲仙」の塗装をやり上げたことは忘れられない思い出である。又、主将の小倉さんに関しては、日常は明るく、練習になると厳しくなり、目の輝きが変わり、けじめをつけるところは今も忘れられない。

学部に入り、後輩が増えてきた中で、これからは自分達がやらねばならない、クラブを支えていかねばならないといつた使命感が強くなつてきた。主将の前原さんは肝臓の病いにも負けず、部員以上になんばつている姿が印象的だつた。マネージャーとなり、井上さん、谷川さん、倉富と歴代マネージャーが、なんばつてきたので、任務の遂行に不安を抱きつつも、自分に負けずにやらねばと思ひ、自分がマネージャーとしてどうあるべきかを考えた。OBの先生方も

も年々増え、多大な寄附を頂いている中で、まず第一に、我々部員が、部費を少しでも貯めていく精神を持たなければならぬと思つた。部員アルバイトもした。時には、ケチなマネージャーだと思われたかもしれないが、全てクラブの為のこと。クラブに関する些細な諸事に、自分の金を出し惜しみすることがケチなことで、クラブの会計をいい意味で節約していくことは、少しもせこいことではないのだという信念を持つていた。井上さんがよくクラブに関することや、クラブ外の事でも、可も言わず焦んで自分の小費を、時によ

大金もあつたが) 出してくれたり、先輩方がいつもポケットマネーを出し合つて、少しでもクラブのお金を温存しようとしていたことは、いつも心の底に残つていた。この精神は、先輩達も頭に入れておいて欲しい。

学Ⅱでは、腰を痛めクラブには非常に迷惑をかけたと思つている。しかし、この年、対校クルーだつた同輩の倉富が、合宿中、試験がある中、目一杯黙々と練習し、皆が寝ている中、一人起きて勉強し、合宿所から試験に通つたことがある。(見事パスしたが) この時の彼のあの責任感と不言実行の態度には、心を打たれ、今でも忘れられない。

当時の主将は難波さんで練習も一層充実していき、漕法を少しでも向上させようといつた向上心が強かつた。特に私が主将のときの十二月に、元オリンピックの監督であられた青木勇先生の御紹介による東北大学の合宿への参加が、実現できたことは、難波さんを始め諸先輩方のクラブへの熱意の表われであり、その後、県漕、宮城杯、九山初優勝、西医体三位と確実に進歩していき、現在、漕法が確立しつづつあることは、心から感謝する次第である。

主将の時間は、自分が課したメニューに自分自身が、へこたれそうになつたときもあり、そんな時は学Ⅱを初めとする後輩達のガッツに対して逆に見習つてなんばらねばと思つたことも多かつた。夏は、戸田の全日本選手権に参加した。初めてであり、結果はどうであれ、常に前向きな姿勢を失うまいと思つていたし、特に全国から集まつた大学や、社会人の合宿や練習を直接見て、良いものを吸収することは貴重かつ必要であると思つたし、実際、大変意義あるものだつた。

主将を終えたときは、気分的に一段落したが、西医体で惜しくも破れた時は、自分自身の反省と責任を非常に強く感じた。その後はこれでお役御免ではいけないと思い、今まで得てきたこと、経験したことを、少しでも後輩に伝え、クラブの運営を助言しつつ支えていかねばならないという気持ちで一杯だった。又、試合が近づくとつれ、再びボートを漕ぎたいという気持ちがうずうずしてきた。学Ⅳでの九山、西医体にも出場でき、六年内で、クラブとして優勝、西医体決勝進出を経験できたことは、非常に幸せだった。夏が終わると満足感で一杯だった。又、後輩達が全日本に再び参加してくれたことは、それ以上にうれしかった。その時初めて現役生活が終わつたのだなと思つた。

偉そうなことを思うままに述べたが、まだまだ思い出は書き尽くせず、失敗や反省も多い六年間だった。今、六年間を振り返つてみてどうかと問われると九割は苦しかったという印象が正直なところである。学年が上がるにつれ、ありきたりの楽しさは減つてゆき、責任が重くのしかかつてきた。特に主将のときは、悩みばかりで、連日夢に出ることはクラブのことばかりで夢にまでボートと関わり合つていた。しかし追い出しコンパでは、先輩、後輩から一人一人、自分には素晴らし過ぎる程のはなむけの言葉をいただき、胸上げされた時は、そんな苦しい思い出はどこにもなく、自分なりに充実感、満足感で一杯だった。ボートをやってきてつくづくよかつたと思つた。苦しい思い出は楽しい思い出にすつかり変わつていく。悩みは後悔ではないのだ。前進への指標だった。今思えば、六年間の苦しさをなんて苦しきではなかつた。ボートから得たものに比べれば何でもないことだった。ボートから得たものは男のやさしさと思ひやり

だった。自分は厳しい先輩だったかもしれないが、いつも部員を愛しているし同じ医学部の後輩でも、合宿で同じ釜の飯を食い厳しい練習を共にやつてきた部員と他の人を比べたら愛着は雲泥の差である。

後輩よ、ボートを愛してほしい。常に自分はボート部員なのだという自覚を持つて欲しい。客観的にボート部をみるな、他のクラブとつまらん比較はするな。クラブを充実させよ。そして充実したクラブに誇りを持って。常に百二十%の力を出し切れ、力を出し惜しみる位ならボートなんか漕ぐな。

男のやさしさを持って。やさしさとは妥協ではない。クラブを去ろうとする人間がいたら部員みんな引き止める努力をして欲しい。それでも去つていくなら仕方がない。しかしたとえ去つていっても今まで通りの付合いをする大きな心を持つて欲しい。去る人がボート部は本当に素晴らしいクラブだと心から思えるように。

頭は常に冷静に、ボート部のことを常に思つて欲しい。どうすればクラブが向上するか先輩としてどうあるべきか。いい意味で手本になつて欲しい。後輩に対してアドバイスを忘れるな。常に好かれようと思ふな。言うべきときは言え。

耐える精神を持つて欲しい。やたらタバコを吸うな。試合前に飲み過ぎるな。試合に勝つて美酒を浴びる程飲め。これらは先輩が手本を示して欲しい。その位の忍耐は持つてるだろう。厳しい練習をして試合に勝つて(たとえ負けても)充実感を持つてるようにがんばつてほしい。何事にも恐れなくて欲しい。あきらめるな。やろうと思えば何でもやれる。たかが試験を恐れるな。

上級生、特に主将は、クラブに対してすべての事に全責任がある。

すべての面で成功させるように理想に一步でも近づけるように努力する必要がある。最終責任は自分にあることを絶対に忘れないうで欲しい。負傷その他で試合に参加できなくても、遠征には全員で参加して欲しい。試合に出ないなら行く必要がない。練習することはないというのでは、クラブの意味がない。クラブというのは理屈ではない。そこにクラブの良さがある。たとえ第一線を退いても学生である以上、OB気取りはしてほしくない。後輩からクルーへの参加を頼まれても、いやな顔をせず、進んで協力せよ。そして自分も一緒にがんばり、後輩の尻をたたいて欲しい。それが当然なのだから。しかし、後輩は当然のことと思うな。常に感謝の気持ちを忘れないで欲しい。

他人の偉そうな批判をするな。相手も人間ならお前も人間だ。

OBの先生方、クラブに関係する方々を大事にして欲しい。あいつ、礼儀などはもちろん、小さな事でも常に気を配つて欲しい。寄附を頂いていることを忘れるな。常にコンタクトをとり、近況報告をして欲しい。全国の先輩方を渡り歩く気持ちを持つて欲しい。喜んで子々川に遊びに来てもらい、コンパに出席してもらえらるるに。

部費を貯める気持ちを持つて欲しい。一円でも、十円でもばかにしてはいけない。これはけちとは違う。ここでいう節約とは、お金を大事にすることであり、それでクラブの仕事が不徹底になるのもつての外。アルバイトを出来る限りして欲しい。引越しの手伝いでも何でもできるはずだ。我々は、自分達、そして、まだ見ぬボート部員のため多額の艇や部品を買わねばならない。先生方の寄附の前に、部員が資金を貯める努力を見せて欲しい。

現在のクラブは、以前に比べれば非常に恵まれている。しかしハンデイもまだいろいろとある。しかし他の大学でも様々のハンデイはあるのだ。現在のボート部が、自分達だけで動いていると思うな。すべて先生方の力あつてのものだ。ここまでこれたのも、ボート出身を問わず、多くの先生方の御蔭であり、ボートを復活させた先輩方のバイタリテイの賜物である。戦前、戦後のボート部、そして復活後、現在十年になり、入部した頃の々綱渡りのボート部々から現在に至つた、この長崎大学医学部ボート部を衰退させることなく、更に前向きな姿勢で支えていつて下さい。

今年のOB会には、青木先生にも出席して頂き、合宿も見て頂く予定であり、今後ますますOB会が充実し、ボート部が発展していくことを期待します。

常に冷静に、クラブの一人一人が何を成すべきかを考え、厳しい時は厳しく、部員全体でクラブを支え、男のやさしさをもち、燃えるガッツを持つて。部員を愛し、先輩を大事にしていつて欲しい。

♪ Cold head and Burning heart ♪

## △子々川漕艇場の紹介▽

私たちの練習は、医学部から15 Km程離れた、時津町子々川郷の長崎大学臨海研修所周辺で行なわれており、合宿は、この研修所を利用しております。

1000 mのコースは、地図の実線部（S↓G）です。ロングパドルは、点線のコース（約3 Km）を使う事が多いのですが、たまには、黒島まで漕いだりします。

話は変わりますが、寺島という島があります。この島は、現在、詩島と改称され、歌手のさだまさしが所有する島です。

子々川に、お越しの際は、長崎方面からでしたら、時津のバス停を過ぎ、琴の海観光ホテル前の次のバス停（子々川）で右折して頂ければ450 m程で研修所です。景色の良い所ですので、風景を楽しみながら、私たちの練習を見て頂けたら幸いです。合宿中は、研修所が閉鎖される火曜の午後から木曜の午前中を除いて練習しております。どうぞ、お気軽にお出かけ下さい。研修所の電話番号は、09 588 (2) 8301です。

（地図は、とびらを参照）

## 昭和五十六年度行事結果

3月21日	56年シーズン開始
3月22日～4月5日	春合宿
4月11日	OB会総会（於 銀嶺）
4月29日	九州山口医科学学生体育大会（於唐津 主管福岡大学）
5月22日	新歓コンパ
6月1～6日	強化合宿
6月7日	県漕（於形上湾）
6月13・14日	九州朝日レガッタ（於遠賀川）
7月16～26日	夏合宿
7月29・30日	西日本医科学学生総合体育大会（於琵琶湖 主管滋賀医科大学）
8月11～26日	全日本合宿（1クルーのみ：於子々川と戸田）
8月27日	全日本大学選手権（於戸田オリンピックコース）
9月18日	OB報告会（於銀鍋）
11月3日	熊大対校戦（於子々川）
11月15日	宮城杯（於大村）

# 昭和五十六年度大会成績

○九州山口医科学学生体育大会

試合日・・・五十六年四月二十九日

場所・・・唐津市松浦川漕艇場

種目・・・ナックルフォア

・クルー

Aクルー (対校)

C今里 (学2)

S中里 (教2)

3中山 (教2)

2小林 (学2)

B中崎 (学3)

Bクルー (オープン)

C矢次 (学1)

S永山 (学3)

3日高 (学1)

2松岡 (学1)

B岡田 (学3)

Cクルー (オープン)

C糸柳 (学1)

S永見 (学3)

3山田 (教2)

2山近 (学4)

B松尾 (学3)

・タイム

・成績

Aクルー 対校初優勝

Bクルー オープン優勝 (二年連続)

Cクルー オープン4位 (二回目)

(対校予選)

長熊	大熊	4' 02"	5' 04"	①	2
----	----	--------	--------	---	---

(対校決勝)

山長熊	大熊	4' 25"	4' 20"	4' 27"	2	①	3
-----	----	--------	--------	--------	---	---	---

(オープン予選)

佐医大	4' 34"	0	2
長大A	4' 09"	0	①
熊大B	4' 13"	9	①
長大B	4' 16"	9	2

(オープン敗復)

長大B	①
佐医大	タイムなし
福大	3

(オープン決勝)

長大A	4' 13"	0	①
熊大A	4' 14"	8	2
熊大B	4' 21"	4	3
長大B	4' 24"	0	4

・試合経過

対校クルー予選

スタート5本スパート10本では明らかな差は出ず、200m通過すると勝利を確信できた。それからじりじりと差を広げスパート25本程度で1艇身半程差をつけゴール。危げなところのないレースであった。

オープンAクルー予選

スタートで1艇身リード。コンスタントではピッチをおとし、ストロークを長くした漕ぎで一本ごとに佐医に差をつけていった。大差で勝つという楽な試合展開であった。

オープンBクルー予選

前日、たまたま行なった熊Bとの1000mレースは、こちらのスタート失敗により2艇身差で負けていたので、当日はできるだけ力まぎにきれいなスタートを切ろうと申し合わせていた。その

為かスタートはほぼ同じで200mまでは並んでいた。ところが200mを過ぎたあたりから相手が徐々にスピードを上げ、差が一艇身ほどになってしまった。足げりを入れたが差は縮まらず、ローピッチだったのでピッチを上げようとしたが上がらない。800mを過ぎてやっとピッチが上がったが差はすでに2艇身。スタートをかけた差は少し縮まったがそのままゴール。

#### オープンBクルー敗復

予選ではピッチが低すぎたので始めから少しピッチをあげることにした。スタートでは他にキャンパスリード。よくスピードに乗って500m、600mでは2位と2艇身差800mを過ぎてから佐医がスタートをかけた差が縮まったが、こちらもスタートを入れ1艇身半差でゴール。

#### 対校クルー決勝

スタートでは3クルー差なく、熊大は予選のこともあり、最初からピッチを上げている様子。400mで熊大はわずかに後退600mまで山大と抜きつ抜かれつの大接戦今年はいけると力が入る。600mを過ぎると山大が少しコースをはずれ700mで勝負がついた。熊大は最初の高ピッチのためか疲れた感じ。700m過ぎてからは更にストロークを長くひき、痛快にゴール。

#### オープンAクルー決勝

スタートで熊A、長Bに1/3艇身リード。さらに1/3艇身遅れて熊B。300m付近では熊Aに1艇身リード。700m付近までに熊Aに2艇身差をつけた。スタートをかけた熊Aにつめられたが2/3艇身の差でゴール。

#### オープンBクルー決勝

スタートで出ようとしたが、100mですでに他にキャンパス以上離された。ここで何とか喰い下がろうと足げりを何回も入れたが差は縮まらず、じりじりと聞いていった。500mで3位に1艇身差。700mで1艇身半。800mを過ぎてスピードに乗り、スタートをかけて差は少しづつ縮まったが結局抜けずそのままゴール。

※ ※ ※ ※ ※

練習では、そこそこの速さだったAクルーは本番では、タイム的に飛び抜けて速かった。打倒山口大に一丸となって燃えた結果だろう。オープンの優勝は、ほぼ定着しつつあると言える。出口先生はじめ多くの先生方に見守られての両部門制覇、今年も勝ちたいものだ。

#### ○泉 漕

試合日・・・昭和56年6月7日

場 所・・・琴海町形上漕艇場

種 目・・・一般男子ナックルフォア(出漕16クルー)

・クルー

Aクルー Bクルー

C松尾(学3) C矢次(学1)

S小林(学2) S永見(学3)

3日高(学1) 3今里(学2)

2中山(教2) 2永山(学3)

B中崎(学3) B岡田(学3)

(予選)		順位
長大A(全学)		4
長大医D		3
園漕会A	4' 28" 1	①
佐世保工専D	4' 30" 6	②
長大医C		4
佐世保工専B	4' 30" 8	②
茂木漕友会A		3
佐世保工専E	4' 28" 6	①
長大B(全学)		3
佐世保工専A	4' 22" 2	①
長大医B	4' 23" 2	②
佐世保工専F		4
長大医A	4' 14" 0	①
園漕会B		3
佐世保工専C	4' 16" 0	②
茂木漕友会B		4

・タイム  
C・Dクルー・・・予選落ち

・成績  
Aクルー・・・優勝(二年連続二回目)  
Bクルー・・・準決勝まで

B 金色 (教1)	2 青木 (教1)	3 山田 (教2)	S 中里 (教2)	C 平野 (学2)	Cクルー1
B 末永 (学3)	2 坂本 (教1)	3 生野 (教1)	S 松岡 (学1)	C 山近 (学4)	Dクルー1

(準決勝)		順位
園漕会A	4' 09" 0	①
佐世保工専A		3
〃 B		4
〃 C	4' 10" 4	②
佐世保工専E	4' 05" 6	②
〃 D		4
長大医B		3
〃 A	4' 05" 1	①
(決勝)		順位
園漕会A	4' 17" 5	3
佐世保工専C	4' 12" 8	2
〃 E	4' 21" 4	4
長大医A	4' 09" 2	①

・試合経過

Aクルー予選

約1艇身差でわりと楽なレースだった。

Bクルー予選

スタートで佐Aに遅れをとり2番手につく。全学B、佐Fは400m付近で落ちていき、1艇身先行されている佐Aとの戦いとなった。600m付近で足げりを入れるもさらに佐Aの足げりにあ

差は縮まらずそのまま1秒差でゴール。

Cクルー予選

スタートで曲がり佐工専Bと接触しそうになったが2位につく。

その後序々に追い上げ500m付近でトップ。しかし700m付近から他艇に迫られ、さらにコックスがラストスパートを忘れ忘れ

つさりと抜き去られた。

Dクルー予選

スタートで、出遅れたまま、500 m付近までは何とかついていったが、じりじりと離され、2艇身差で負け。

Aクルー準決

2位でも決勝へ行けたわけだが、もっと気迫がほしかったと思う。ラストののびが今一つであった。

Bクルー準決

スタートで医A、佐EFに1/3艇身リード1艇身おくれて佐D。400 m付近では知らぬ間に医Aに1艇身差をつけられていた。佐Eとは300 m付近からデッドヒートであったが、佐Eがこちらのレーンに近づき500 m付近でオールが2回接触するというハプニングもあった。550 mで足げりを入れ佐Eに半艇身リード、700 m付近で並ばれ、再び足げりを入れたがのびず、スパートのタイミングも遅れ、一艇身差で負ける。この差は、コックスの失策によるものである。

Aクルー決勝

準決が危うかったので気合が入り、2位に2艇身弱の差をつけてゴール。準決よりは良かったが、ラストののびは良いとは言えなかった。優勝はしたが、ラストののびが悪く将来に不安を投げかけたレースだった。

※ ※ ※

昨年に引き続きAクルーは優勝した。しかし、他のクルーは散々の成績だったと言えよう。Bクルーの準決だが、妨害が行なわれたと思つたなら、堂々と抗議すべきだろう。後ろの見えない漕手は、コックスを信頼して漕いでいる。その努力を徒勞に終わらせ

てはならない。

○九州朝日レガッタ

試合日・・・56年6月13、14日

場所・・・福岡県遠賀郡遠賀川漕艇場・千mコース

種目・・・シエルフオア(出漕19クルー)

ナツクルフオア(出漕14クルー)

・クルー

Aクルー

C 松尾(学3)

S 小林(学2)

3 日高(学1)

2 中山(教2)

B 中崎(学3)

Bクルー

C 平野(学2)

S 永山(学3)

3 今里(学2)

2 中里(教2)

B 岡田(学3)

・結果

Aクルー 準決勝進出

Bクルー 準決勝進出

・タイム

シエルフオア(Aクルー)				
(予選)				
佐大	3' 50"	6	3	
小町	4' 05"	8	4	
九工大A	3' 39"	6	①	
西南大	3' 42"	0	②	
長大医				
(準決勝)				
佐大COSMOS	3' 47"	6	①	
九州大A	3' 59"	8	4	
長大医	3' 49"	0	2	
九州大B	3' 52"	0	3	



ナツクルフオア ( Bクルー )			
( 予選 )	長大医	4' 13" 2	3
	西南大会	4' 12" 0	②
	佐用姫会	4' 11" 0	①
( 敗復 )	長大医	4' 19" 8	①
	九工大	4' 35" 4	3
	安川電 B	4' 27" 5	②
( 準決勝 )	長大医	4' 17" 4	3
	西南大鉄	4' 17" 2	2
	新日鉄	3' 59" 2	①

・試合経過

Aクルーシエルフオア予選

どんより曇った雨がちの天気ながら、水面は穏やか。風はやや逆風。スタートで勢いよく飛び出した後、300 m付近で足蹴りを入れ、二位以下を一艇身以上引き離す。そのまま中盤を快漕。800 mからラストスパートに入るが、かえって漕ぎが乱れはじめ、ピッチもなかなか上がらない。ついに850 mで西南大に抜き去られ、そのまま二位でゴールイン。準決へ。

Aクルーシエルフオア準決勝

スタート一本目のタイミングが遅れたものの、100 mではマークする佐大コスモスと並ぶ。300 m、500 mで足蹴りを入れ、600 mではややリードしてトップ。700 m通過と同時に早めのラストスパートに入るが、再び大きく乱れ出す。全くミートしないまま900 mであっさりコスモスに抜かれ、結局一艇身離されてゴールイン。決勝進出ならず。

Bクルーナツクルフオア予選

交通事故で漕手が揃わず、BとCの混合クルー臨む。スタート後、低ピッチで漕ぐが中壁を過ぎて三艇並んだまま。600 mを過ぎて他艇をわずかりードするが、その後、蛇行し、他艇のスパートも重なり僅差で負け、敗復へ。

Bクルー敗復

終始トップで楽勝であったが、蛇行が見られた。

Bクルー準決勝

強豪新日鉄がスタートから飛び出し、その速さに度肝を抜かれる。せめて2位になろうと40本のラストスパートをかけるが西南にあっさり抜かれてしまった。

※ ※ ※

決勝に手が届きかけたAクルーだったがラストの伸びが今ひとつで、またまた準決留まりだった。20〜30%強く漕げば、10%艇速が伸びるといふ。精進あるのみだろう。交通事故で選手が代わったBクルーは、蛇行に悩まされ続けた。

小林さんのお母様に昨年に引き続き、差し入れを頂きました。部員一同感謝しております。

○西日本医科学生総合体育大会

試合日・・・56年7月29・30日

場所・・・滋賀県立琵琶湖漕艇場・1000 mコース  
種目・・・シエルフオア(出漕20クルー)及び

ナツクルフオア(出漕26クルー)

(シエルフオア1次予選)

①	長崎大A	3'	35"	3	タイム
②	浜医大A	3'	42"	8	
3	京大B	3'	51"	7	
4	和医大	4'	04"	9	
①	長崎大B	3'	38"	7	タイム
②	滋医大B	3'	51"	5	
3	鳥取大B(錦王)	3'	56"	6	
4	京府医大B	4'	01"	5	

(シエルフオア2次予選)

①	長崎大A	3'	34"	8
②	広島大A	3'	39"	5
3	浜医大B	3'	42"	4
4	浜医大A	3'	44"	8

(ナツクルフオア1次予選)

①	熊本大A	4'	15"	9
②	鳥取大B	4'	21"	1
3	長崎大C	4'	21"	3
4	岡山大C	4'	27"	5

①	長崎大D	4'	17"	3
2	佐医大A	4'	17"	7
3	滋医大	4'	27"	9

(ナツクルフオア一次敗復)

①	長崎大C	4'	29"	9
2	佐医大B	4'	39"	9

(ナツクルフオア二次予選)

①	岡山大A	4'	10"	1
②	長崎大D	4'	15"	7
3	京大C	4'	17"	0
4	大阪大B	4'	21"	8

成績

Aクルー(シエル) . . . 3位(初の対校決勝進出)  
 Bクルー(シエル) . . . 準決進出  
 Cクルー(ナツクル) . . . 2次予選で敗退  
 Dクルー(ナツクル) . . . 準決進出

B	金色	(教1)	C	山近	(学4)	A	クルー	(シエル)
2	青木	(教1)	B	中崎	(学3)	C	松尾	(学3)
3	山田	(教2)	2	中山	(教2)	S	小林	(学2)
S	中里	(教2)	3	日高	(学1)	3	日高	(学1)
C	山近	(学4)	B	岡田	(学3)	S	永見	(学3)
D	クルー	(ナツクル)	2	永山	(学3)	C	矢次	(学1)
B	生野	(教1)	3	今里	(学2)	B	クルー	(シエル)
2	坂本	(教1)	S	松岡	(学1)	C	クルー	(シエル)
3	末永	(学3)	C	山近	(学4)	B	クルー	(シエル)
S	松岡	(学1)	D	クルー	(ナツクル)	C	クルー	(シエル)
C	山近	(学4)	B	岡田	(学3)	2	永山	(学3)
D	クルー	(ナツクル)	3	今里	(学2)	S	永見	(学3)
B	生野	(教1)	S	松岡	(学1)	C	矢次	(学1)
2	坂本	(教1)	C	山近	(学4)	B	クルー	(シエル)
3	末永	(学3)	D	クルー	(ナツクル)	C	クルー	(シエル)
S	松岡	(学1)	B	岡田	(学3)	2	永山	(学3)
C	山近	(学4)	3	今里	(学2)	S	永見	(学3)
D	クルー	(ナツクル)	S	松岡	(学1)	C	矢次	(学1)

①	長崎大B	3'	42"	5
2	鳥取大A(海王)	3'	43"	3
3	滋医大B	4'	01"	7

(シエルフオア準決)

①	長崎大A	3'	35"	8
②	滋医大A	3'	35"	9
3	浜医大B	3'	40"	9
4	熊本大B	3'	48"	8

①	岡山大	3'	39"	0
②	広島大A	3'	40"	7
3	京府医大A	3'	42"	0
4	長崎大B	3'	43"	8

(シエルフオア決勝)

①	滋医大A	3'	30"	5
2	岡山大	3'	31"	5
3	長崎大A	3'	38"	8
4	広島大A	3'	41"	1

(ナツクルフオア二次敗復)

①	京大C	4'	1	1	2
②	鳥取大C	4'	1	1	6
3	長崎大C	4'	1	3	6
4	大阪大B	4'	2	6	1

(ナツクルフオア準決)

①	京大A	4'	1	1	2
2	長崎大D	4'	1	6	0
3	佐医大A	4'	2	1	5

(ナツクルフオア決勝)

- ① 岡山大 A
- 2 岡山大 C
- 3 熊本大
- 4 京都大

・試合経過

・シエルAクルー一次予選・・・スタートで浜医Aがシートをはずし大きく遅れる。終始トップでそのまま一着でゴール。

・シエルBクルー一次予選・・・スタートで滋医Bと鳥大Bにキャンパス差をつけ、300m付近では滋医Bに1艇身、鳥大Bに3/2艇身、京府Bに2艇身つけ、以後じりじり差を広げ、2位の滋医Bを2艇身以上離してトップでゴール。

・シエルAクルー二次予選・・・スタートでは浜医Aを除く3艇が並び、やや長崎リード。500m付近で浜医Bが遅れ、700m付近で広島Aが遅れだし、800mからのラスト30本も効いてトップでゴール。

・シエルBクルー二次予選・・・スタートで大きく曲がり、1レーンの滋Bに当たりそうになり、100mで立て直したが、鳥Aに半艇身

離され、滋Bに並ばれる。滋Bは00m付近で落ちたが、鳥Aとの

差は縮まらない。700m通過後ピッチを上げる。900mで並んで、ゴールでは逆に半艇身つけて1着。

・シエルAクルー準決・・・スタートでトップに立ち、コンスタントで足蹴りを入れる。600m付近では2位滋Aを2艇身離す。しかし、800m以後滋Aが猛然とスパートをかけ、一本一本差が縮まる。そしてゴールには長Aと滋Aがほぼ同時になだれ込んだが01秒差で一着。

・シエルBクルー準決・・・スタートで岡山がとび出したが、450m付近まで1艇身程の差で追う。500mにさしかかった折で、4レーンの長Bのラダーに漁業用ブイがひっかかり、艇が完全に停止。すぐ審判艇を呼んだが、審判員の判断が遅れ、他の3艇はゴール。再レースの実施は危ぶまれたが、日漕規則により、一時間後に行なわれる事になった。

・シエルBクルー準決再レース・・・広Aと岡山が最初からとび出し、300m付近で、既に1艇身離される。再三ピッチを上げ、足蹴りを入れたが、差は広がるばかりで、700m付近で広Aに3艇身、岡山に2艇身離され、半艇身先行された京府に並んだものの、再度離され4着でゴール。

・シエルAクルー決勝・・・1レーン滋A、2レーン岡山、3レーン長A、4レーン広A。

・滋Aがスタートでとび出し、1、2レーンがトップを争い、3、4レーンがやや遅れて競るといふ展開。200m、400m、800mでそれぞれ足蹴りを入れるが追いつけず、広Aにも喰い下がられる。1、2レーンから2艇身の差をつけられたまま、800mでスパート。しかし、広Aをつき進むとどんで、吉良まゝ立。各周ナイムハッ

強風のため1・2レーン有利と考えられただけに、スタートでトップを奪いたかった。

・ナツクルCクルー一次予選・・・スタートは4艇ともほぼ並んだが、100mを通過してから熊Aが出る。500m付近で長Cがわずかに抜け出し、鳥B、岡Cと続く。800m通過後、鳥Bが猛然とスパート。950m付近で捕えられて結局3位。

・ナツクルDクルー一次予選・・・スタートで艇が揺れ、佐Aとの競り合いとなる。300m付近までは並んでいたが、それ以後800mまでに半艇身程離してラストスパート。これがなかなか効かず、ゴールには佐Aとほぼ同時にだれ込んだが、0.4秒差で一次予選通過。

・ナツクルCクルー一次敗退・・・佐Bとの一騎打ち。スタートで佐Bのコックスが手を上げたため、バウが気を取られて漕ぎ遅れ、大きく曲ったが、それでもリード。後は楽に漕いで、最初から最後まで水をあけて勝った。

・ナツクルDクルー二次予選・・・スタートでは岡Aがとび出した。長Dは京Cに遅れをとったが、すぐに追いつき300m〜800mまでは抜きつ抜かれつの状態。ラスト30本でリードをとり、さすが京Cをわずかに振り切って準決進出。

・ナツクルCクルー二次敗復・・・スタートで京Cがとび出し、鳥Cが続く。長Cは鳥Cに半艇身離されるといふ展開。長Cは再三足蹴りを入れるが、差はほとんど縮まらない。ラストスパートもばらばらで、完敗であった。

・ナツクルDクルー準決・・・スタートでは佐Aが出遅れ、京Aがトップに立った。

京Aに300m付近までは1艇身差でついていったが、中盤500mあた

りからじりじりと差を広げられ、ラストスパートでやや追い上げたものの決勝にはとどかなかった。

※ ※ ※ ※

まずは、Aクルーの三位入賞おめでとう。しかし決勝での一、二位との差(タイムから推定して約三艇身)は大きかった。優勝した滋賀Aは、決勝当日、二次敗復、準決勝とこなして決勝に進んでいます。その結果、我々を大きく離して優勝するのですから、彼らのパワーとスタミナには驚くべきものがあると言えます。彼らと同等以上の体力が、彼らに勝つために必要でしょう。

C・Dクルーは一年生を二人ずつ乗せて、いましたが、案の定、今一つの成績でした。基礎体力養成が不十分なままの一年生を入れると、クルーのレベルは低下するようです。

一年生だけのクルーを作らせる事には、多くの議論のある所ですが、基礎体力の養成さえ十分なら、毎年のように一年生クルーでナツクルの決勝に行く岡山の例もある事ですし、四人で組もうが、二人ずつ分けようが関係ないと思います。しかし、その体力が4mをパドルで漕ぐのに不十分なら上級生と組ませるのは良くありません。劣った体力が、人一倍の疲労の蓄積、そして無けなしの漕技の劣化を生じさせ、彼は消耗しきって試合に出るでしょう。上級生は上級生で、すぐばてる彼らの為にきつい思いをする結果、ストレスがたまりません。C・Dクルーはこういう状態にあったのではないでしょうか。一考を望みます。

○全日本大学選手権競漕大会

試合・・・昭和56年8月27日

場所・・・埼玉県戸田オリンピックビックコース

エントリ―種目・・・シエルフォア(出漕43クル―)

・クル―

C 松尾 (学3)

S 小林 (学2)

3 日高 (学1)

2 中山 (教2)

B 中崎 (学3)

・成績 予選通過ならず、敗復落ち。

(付フォア決勝)

東京医歯大	5	7' 09" 81
中央大	①	6' 57" 64
東京商船大	4	7' 06" 28
東北大	2	7' 03" 48
日大	3	7' 05" 38

(エイト決勝)

早大	4	6' 23" 03
東北大	3	6' 03" 15
東京大	①	6' 01" 25
中央大	2	6' 03" 43

予選		500m	1000m	1500m	2000m
長大医	5	1' 50" 59	3' 47" 27	5' 41" 60	7' 44" 70
一橋大		1' 49" 18	3' 41" 70	5' 37" 59	7' 33" 37
山梨大	6	1' 59" 22	4' 11" 73	6' 04" 53	8' 04" 96
岡山大	2	1' 49" 35	3' 47" 69	5' 40" 23	7' 35" 72
名古屋大	3	1' 55" 44	3' 51" 03	5' 47" 01	7' 41" 38
法政大	4	1' 51" 55	3' 53" 24	5' 45" 14	7' 43" 25

・タイム

敗復		500m	1000m	1500m	2000m
中京大	4	1' 54" 40	3' 49" 07	5' 40" 70	7' 43" 39
早大(理工)②		1' 50" 45	3' 43" 01	5' 37" 92	7' 34" 74
新潟大	3	1' 57" 57	3' 51" 09	5' 45" 34	7' 40" 00
早大	①	1' 48" 20	3' 39" 36	5' 33" 51	7' 31" 36
長大医	5	1' 54" 42	3' 50" 07	5' 48" 50	7' 50" 53
成蹊大	6	1' 57" 19	3' 56" 03	5' 54" 61	7' 55" 42

(参考)

滋医大		1' 52" 94	3' 49" 92	5' 44" 89	7' 34" 46
-----	--	-----------	-----------	-----------	-----------

(レース時刻が違うので単純な比較はできない)

試合前日まで台風の影響で雨がひどかったが、当日は雨もあがり、あまり暑くもなく、コンディションは良い方であった。

予選では第一レーンに出場した。スタート前は、戸田での合宿中御世話になった法政大が、第五レーンに出場することもあって少し緊張したが、やる気は充分。今までのつらい練習を思い出しながら、悔いのない試合をやるうと心に誓う。九時四十分、スタート。スタートから、第二レーンの一橋大が飛び出した。長大も一位にピタリついてゆき、1000m付近までは、非常に希望の持てるレース運びであったが、やはり1500mを過ぎて急に体が重くなり、ラストスパートをかけるも艇速がのびず、結局、法政大にも追い抜かれ五位となったのは、かえすがえすも残念であった。

敗復は第五レーンに出場。レース前は、はっきり言って調子が悪かった。予選での疲労がなかなかとれず、体がだるく、全く力が入らない。しかし、学三の方々にとっては、これが最後の試合だし一杯やろうと思いつつ試合にのぞんだ。スタートはがんばったが、コンスタントに落としてから、足に力が入らない。非常に苦しいレースであった。結果も他大学からズルズルと離されてみじめなものであった。これは全く整調の未熟さによるものと深く反省している。最後までがんばってくれたクルーの皆さんには、たいへん申しわけないと思ってる。

最後に、合宿中何かと御世話になり、お忙しい中、試合を見に来て下さった井上先生に心からお礼申し上げます。又、インカレ出場に御協力、御援助下さった青木先生はじめ諸先生、諸先輩方、戸田まで同行して下さいました今里さん、中里君並びに応援してくれた後輩

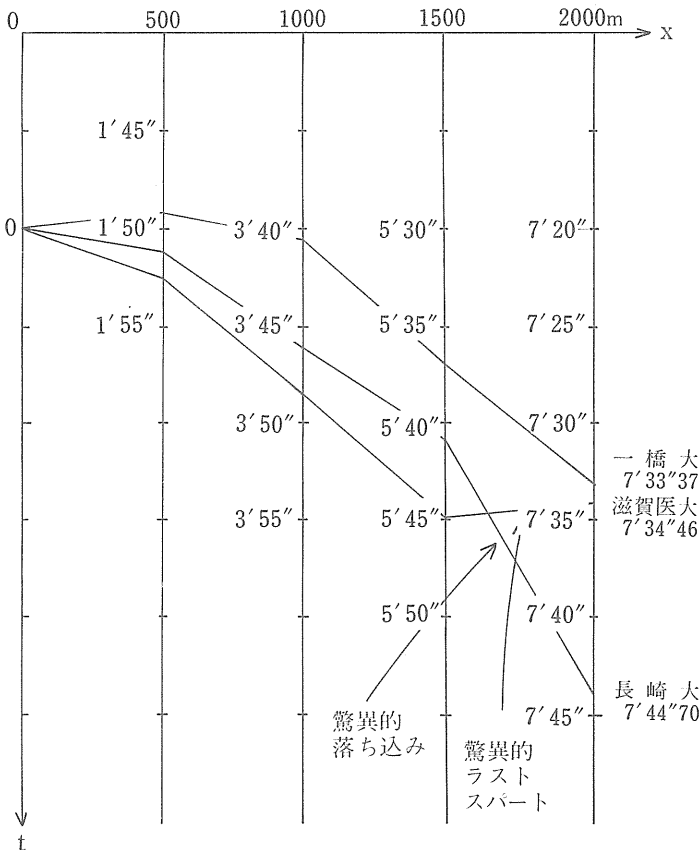
諸君に心から感謝いたします。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

この大会では、舵手付フォアで準決勝進出には7分30秒、決勝進出には7分20秒を切る事が一応必要である。次に予選のペースグラフを7分30秒を水準として書いてみた。一位の一橋大と我々を比較してみる。1000mまで飛ばした一橋は、その時点で二位(この時長崎)に二艇身半の差をつけ、セルトダウンをしている。

その艇速の落し方は1500mまで長崎と同じだが、そこからゴールまでは長崎のペースの落ち込みは激しく、いかにもばてたという感じがするようだ。準決に行く為には一橋のようなペース配分が良いが、滋賀医大の如く1500mを過ぎても、スピードをアップするスタミナとグラフ全体を上方に移動させるパワーの養成が必要である。

予選のペースグラフ



○熊大対校戦

試合日・・・昭和56年11月3日

場所・・・長崎県時津町子々川漕艇場

1000 mコース

種目・・・シエルフォア対校 (Aクルー)

ナツクルフォア・オープン (B・Cクルー)

・クルー

Aクルー

C今里 (学2)

S小林 (学2)

3日高 (学1)

2中山 (教2)

B中里 (教2)

Cクルー

C永見 (学3)

S松岡 (学1)

3山田 (教2)

2岡田 (学3)

B高須 (教2)

Bクルー

C矢次 (学1)

S坂本 (教1)

3生野 (教1)

2青木 (教1)

B金色 (教1)

・結果

Aクルー シエル対校優勝 (二年連続二回目通算2勝1敗)

Bクルー ナツクルオープン2位

Cクルー ナツクルオープン3位

・タイム

対校	長	3' 31" 7	①
	熊	3' 44" 1	2
		(子々川新記録)	
オープン	熊	4' 28" 2	①
	長A	4' 43" 5	2
	長B	4' 56" 8	3

・試合結果

シエル対校

レース前から負ける気がしない雰囲気はクルーにあった。スタート5本でわずかにリードし、コンスタントに入る前で2/3艇身程リード。クルーの乱れもなく、この時点で勝利を確信。700 mまでピッチを変え、ラストスパートを入れる時点で艇差は三艇身あまり。そのまま楽々と逃げきりゴールした。

ナツクルオープン

熊大は「琴海」、Aクルーは「多良」、Bクルーには赤艇が割り当てられ、レースが行なわれた。

Aクルーのスタートは整調ベアとパウベアとのオールの動きが合わず、コンスタントに移る時点でBクルーには半艇身勝ったものの熊大にはすでに一艇身先行された。その差は300 m付近まで変わらず、足蹴りを入れても縮まらない。500 m付近では熊大の一艇身半後にA、二艇身半後にBの順。Aは700 m付近で足蹴

りを入れ、その後ピッチ一枚上げても差は縮まらず 800 m 付近で熊大に二艇身近く離され、ラストは一本一本離された。結局熊大から A は七艇身、B は A に六艇身ほど差をつけられてゴールした。

※ ※ ※ ※ ※

対校クルーは追風に恵まれ好タイムで優勝しました。これに引き換え B・Cクルーの成績は艇差など口に出せないものです。レースで全力を尽くしてこそ親善も成り立ちます。差が開いた後、諦めるようでは失礼です。わざわざ応援に来られた、尾崎先生はじめ多くの先生方も、御不満だった事と思います。奮起を促します。尚、宿泊の御世話等、歓迎に不手際のあった事を、熊本の皆さんに、おわび致します。

○宮城杯

試合日・・・昭和56年11月15日

場所・・・大村市久原郷東浦湾・1000コース  
種目・・・ナツクル・10クルー出場

・クルー

Aクルー

Bクルー

Cクルー

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| C今里(学2) | C矢次(学1) | C松尾(学3) |
| S小林(学2) | S坂本(教1) | S松岡(学1) |
| 3日高(学1) | 3生野(教1) | 3山田(教2) |
| 2中山(教2) | 2青木(教1) | 2永山(学3) |
| B中里(教2) | B金色(教1) | B高須(教2) |

・成績

Aクルー・・・優勝(二年連続 二回目)  
Bクルー・・・予選落ち  
Cクルー・・・予選落ち

・タイム

(予選)			
長大医 A	4' 03"	①	
佐工専 C	4' 17"	②	
茂木漕友会 B	4' 26"	3	
長大医 B	4' 24"	4	
佐工専 A	4' 05"	①	
園漕会 B	4' 23"	3	
佐工専 D	4' 13"	②	
長大医 C	4' 26"	3	
茂木漕友会 A	4' 25"	②	
佐工専 B	4' 20"	①	
(決勝)			
佐工専 C	4' 25"	4	
佐工専 D	4' 37"	5	
佐工専 A	4' 22"	3	
佐工専 B	4' 22"	2	
長大医 A	4' 18"	①	
茂木漕友会 A	4' 45"	6	

・試合経過

Aクルー予選・・・スタートでは各艇差がなく 300 m で半艇身程リードしトップ。その後も安定したピッチのもとに少しずつ差をひろげ、二位に四艇身の差をつけゴール。

Bクルー予選・・・レールが短く、リギングの悪い艇にあたってしまい、しかも海は横波でかなり荒れている、最悪のコンディションでレースに臨んだ。スタートは、出遅れた。

300 m で園漕 B を捕えるも、工専 A に 3/2、工専 D に半艇身離さ



れ、500 mで足げりを入れても縮まらず、工専A・Dにはさらに離され、800 m付近では園漕Bにも捕まり、4位でゴール、波の荒さに気落ちしたというが、他艇も同じ。気合いが足らない。

Cクルー予選・・・スタートで佐工専Bが1/3艇身リード、長大医Cと茂木は少し遅れて並んだが、300 m付近から本艇が茂木を離しはじめ、佐工専B、少し水があいて長大医C、茂木の順は、800 m付近まで変わらなかった。しかし、ラストスパートらしい漕ぎが見られず、茂木に、あっさり抜かれて、4位となる。

Aクルー決勝・・・予選時よりも波が荒い、最悪の天候下。他艇もスタートから飛ばし、200 m付近まで差なし。風も強く波もあるため、思う様にピッチを上げられず、500 mでも差は1/3艇身程度。全然安心できない状況。750 mまでどうにか一艇身程差をひらいたもののスパートを入れる時になって、大波で艇がぐらつく。他艇が急速に近づいた様に思われ、一瞬ひやりとした。しかし、すぐにたて直し、そのまま二艇身弱の差をつけて、トップでゴール。

※ ※ ※ ※ ※

Aクルーが優勝し県大会で四連覇を果たした。他のクルーも、来シーズンに向け、再起を計ってほしい。応援に駆けつけて来られた先生方、どうもありがとうございました。

## △部員雑感▽

### アメリカとメキシコの旅

学Ⅳ 倉 富 彰 秀

昨年の夏、念願だったアメリカに行くことができ、今回はそれを日記風に綴ってみます。

8月1日

東京の箱崎エアターミナルに遅刻すること一時間、なんとか成田発の飛行機に会ったが、ほんとに今からアメリカに行くのかと思うと少し不安になる。機中で時計を17時間戻す。S a n F r a n c i s c o 到着、L. A. 集合の行き帰りだけのツアー。早くも何人かと友達になり、機中で映画「スーパーマンⅡ」を楽しむ。P M 8 : 0 0 サンフランシスコに到着。夜、ホテルに着いてから、さつそく近くを歩き回る。

8月2日

朝6:00に起きて、ツアーのメンバー7人で、フィッツシャーマンズワーフまで歩いて行き、熱いカニを食べる。昼は当日ツアーでサンフランの主だった所を一回りする。夜R o s s o へ行き、パーティー。

8月3日

パークレーに行く。

8月4日

フィッツシャーマンズワーフに行く。夕食のステーキは5\$で重さが1Kgの靴の底みたいをやつでした。

8月5日

またフィッツシャーマンズワーフに行き、ヘリコプターに乗って、アルカトラス島を空から見物。

8月6日

昼の便でサンフラン↓デンバー↓ラスベガスと移動。この日初めて管制官のストを知る。この夜は徹夜でカジノをうろつく。一獲千金の夢は消え、20\$程スロットマシンに寄付する。

8月7日

ストの影響が心配だったが、なんとか飛行機は飛び、ラスベガス↓デンバー↓ロスアンゼルス。

格言その1・ラスベガスは暑い!

8月8日

ハリウッドのホテルを出て、やっこの思いで、REZIDENTARC O V E R T I B L E にたどり着く。憧れのキャデラックエルドorado オープンを借り、唯一の知り合いが住んでいるロス郊外を目ざす。なおレンタル料金は走りほうだいで28\$ / day でした。55マイル制限のフリーウェイをおっかなびっくり走ることに1時間、中学の後輩の女の子で今はアメリカ人と結婚して市民権と永住権を取ってしまったC o r e のアパートメントハウスに夕刻到着。

格言その2・カリフォルニアの青い空にはオープンカー

8月9日

ナッツベリーファームで一日遊ぶ

8月10日

彼女達に厚くお礼を言っ、(もちろん英語で)ロスアンゼルスに戻る。Thank you very much とほくは言った。昼にロスに着き、どうしようかと思案にくれる。

カナディアンロッキーか、グラントキャニオンか、メキシコに行くか、はたまたN・Yに飛ぶか、しばし考えて、メキシコに行くことにする。ロスアンゼルス→エルバン

8月11日

一日中エルバンで体を休める。あすはいよいよメキシコ行きのバスの中だ。

8月12日

昼にエルバンを出たバスは、次の日の夜8:00過ぎにメキシコシティーへ到着。30時間の旅でした。驚いた事にシティーまでの間、2車線の道路が一本あるきりで、他に全く何もなく、周りはサポテンと低木ばかり。時々「牛に注意」の標識を見る。

8月13日

気の良いメキシカンの運ちゃんにホテルイザベラまで乗せてもらう。カローラでした。

8月14日

メキシコシティーにラテン語の勉強に来たという気の良い28才位のおっさんと仲良くなる。

8月15日

そのおっさんと酒を飲みに行き、ビールで乾杯！メキシカンと意気投合、またまた乾杯！

8月16日

人類博物館に行き感動する。午後、テイオテイワカンのピラミッドに行く。また感動する。夜はマリアツチ広場へ。

8月17日

毎晩遅くまで話し込む。そう全部で10人位が一つの部屋に集まり、

キャベツをかじりながら。外から見れば異様に見えたでしょう。この極めて個性あふれる冒険野郎達の南米旅行の体験談を聞くのは、最高に楽しかった。名残り惜しいが、メキシコシティーを午後のバスで出発し、エルバンに向かう。スペイン語でビールのことをセルベツサ、乾杯のことをサルー、友達のことをアミーゴと言います。

格言その3・メキシコは、セルベツサでサルーしてアミーゴ！

8月18日

夕方エルバンに到着。途中、メキシコの小さなバスターミナルでチョコレートを買う。そして食べる。

8月19日

世界一というカールスバッド洞窟を見物。

夕方 *Fever general fatigue diarrhea*

などの症状が出現。体が動かなくなる。メキシコからのバスで一緒になった日本人に看病してもらう。明日もこのままの状態ならば入院しようと思う。細菌性下痢と考えていたが、特にコレラじゃないかと思ひ、不安な一夜を過ごす。

8月20日

前夜からの安静、水分摂取が功を奏したのか、昼すぎにはケロツと良くなる。生水は飲んでいないし、やっぱりあのチョコレートがあつたのだろうと思う。

格言その4・メキシコのチョコレートは食うな！特にバスターミ

ナルのは！

この旅行も残す所、あと10日余り、メキシコのやつらが言ってい

ツキーも良いなと思うし、やっぱり東海岸まで行ってみようかとも  
思い、ずい分迷ったが、飛行機の便が予約できたマイアミに行くこ  
とに決め、またまた友達になった日本人旅行者4人と、とっておき  
のみやげ話をする。一人はカヌーで川下りを20日間やって、エルパ  
ソに來たとか言っていた。この夜は、エルパソの飛行場の床の上で  
寝る。

8月21日

エルパソ↓デンバー↓マイアミ。昼にマイアミ着。フォードフェ  
アマウントを借りてマイアミビーチへ向う。途中、飛行場のボーデ  
イングゲートで2言3言話をしたドイツの女の子を見つけて車に乗  
せてやり、いっしょにビーチへ行く。夏はシーズンオフで安い料金  
でプール付きの海沿いのホテルに投宿

8月22日

ホテルでアメリカにゴルフをしに來たという結構な日本人に会い、  
世界で最も有名だと言うゴルフコースと一緒に行く。記念にパット  
をやって來ました。マイアミ発ニューヨーク行きが昼の2:0  
0。これに乗り遅れてしまい、止むなく、レンタカーをあと2日間  
延長して、エバングレイドナショナルパークへ向う。この時、初め  
て一人になる。一人で車を走らせていると急に感傷的になり、夕陽  
が沈む様は大変に美しく、胸を打った。しかし、その晩は、イギリ  
スから來た青年2人と *Shaving a room*

格言その5・ぼくはマイアミで、夕陽を追いかけて車を走らせた。

8月23日

レンタカーがあと一日ある為、よっしゃ、ここまで來たらアメリ  
カ最南端の町、キーウエストまで行つたと思ひ切り、12時間余り

のドライブに挑戦。ナショナルパークの出口で、アメリカ人のカッ  
ブルにヒツチされる。3人でワイワイ言いながら夕方、キーウエス  
トに到着。ものの本にあったサンセットワルージングとしやれ込む。  
8\$なり。

格言その6・キーウエストの空は青く、海は俺の心のように広く、  
そして美しかった！

8月24日

レンタカーを返し、自転車借りて、キーウエストの町を走り回  
る。オイスター(かき)を食べ、黒ビールで酔っぱらう。

8月25日

ノーチラス号という大それた名前のクルーザーで沖に出てスキン  
ダイビングを楽しむ。15\$なり。前日注文しておいた、ゴーストシ  
ェルに絵を入れてもらったのをビーチで受け取り、いかにも古い感  
じの双発プロペラ機でマイアミに向かう。この航空会社こそ、57年  
1月15日に墜落事故を起こしたあの会社なのでした。しかし落ちず、  
この日はキーウエスト↓マイアミ。マイアミの空港で寝て、翌日、  
マイアミ↓デンバー↓ニューヨーク

8月26日

ニューヨーク着。ついにやって來ましたニューヨーク。旅の疲れ  
もふつとんで、瞳孔散大、ニューヨークの夜は長い。

格言その7・オレはニューヨークの夜をジャズで迎えた。地下の

ライブハウス、タバコの煙とバーボンで過ごしたひ  
ととき。短かったこの旅も、もう終わりに近づいた  
事を悟った。やけに煙が目にしみた。

8月27日

またまた飛行機に乗り遅れN・Y・にもう一泊。YMCAで洗濯をして、バスケットボールをやつて、午後、自由の女神を見て、夜エンパイアステートビルディングに当然の如く登る。

8月28日

今度はきちんと間に合い、N・Y・↓デンバー↓サンフラン。サンフランでメカニックをやっている日本人と、サンフランの飛行場で知り合い、泊めてもらう。しかし朝まで話し込んで、あまり眠れなかつたのです。

8月29日

この為に、わざわざ、サンフランに來たというオルゴールを買つて一路ロスへ。サンフラン↓デンバー↓ロスアンゼルス 深夜ロスを着。ホテルで一か月ぶりにツアーのメンバーと再会。無事を喜び合う。

8月30日

車で、ドジャーススタジアムに行き、野球見物。夕方よりマジックタウンテンに行き、世界一のジェットコースター「コロツサス」に乗る。その晩は、唯一の知り合S Chico の所に行き、相ぼろと泊めてもらう。この夜は、ある種のタバコを喫いました。しかし、大したことはなかつたのです。

8月31日

朝方、駐車場の車がレッカー車で運び去られているのにもめげず、必死になって車を捜し出し、その日PM2:30発の飛行機になんとか、間に合つて、ついでに少々のおみやげをあわせて買ひ、シンガポールエアラインに乗り込む。飛行機の中で10時間、時差で17

いにかけて airplane は一路日本へ。とつても短く、ぎつしりとつまった長く32日間の旅でした。

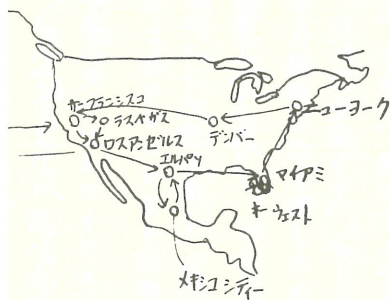
9月1日

成田着。晴れ。

ふり返つて

ぼくの大好きな作家に開高健という人がいます。そう、あのCMで「ハドソン川でもマスが漁れる。」などと言っている人です。彼曰く、「若者よ旅をしよう。それは君の人生に何倍にもなつてはねかえつて来る。

長い休みが取れるのは一生のうちで学生時代だけかも知れない。こんなチャンスのがす手はありません。貧乏旅行こそ、若者の特権であると思います。ぼくはこんなに短い旅だったけれど、たくさんのおみやげを見て、そして感じて、考えて來ました。それはどんな高価なおみやげにもまさるものだと思つております。



## 症例報告

学Ⅳ 末 永 俊 郎

自分自身及び後輩の性格的一側面より見た「離脱症候群 (escape syndrome)」について、過去六年間にわたり、若干のデータを得ることができたので、ここにその症例と病態を報告し、独断と偏見に満ちた解釈を示した。今後の参考にさせていただきたい。まず、その一例を報告する。

(症例) 某S氏は、日頃からポート部内における自らの位置について漠然とした不満をいだいていた。入部以来、何の疑問もいさかずに、ただ漕いでいた自分が何であるのか、何のためにポート部に属しているのかという事を、雀荘での先輩とのささいな、いさかいをきっかけにして、強く考えるようになった。束縛された放課後、上層部からの高圧的発言、自らの勉強不足のみに起因する成績不良等からのがれ、自由に自分の時間を持ちたいと考え、退部届をしたためた。

その間の精神状態は、不安定で、非常に感情的になっていた。部員に対する思いやりにも欠き、自分勝手な行動をとるようになっていた。しかしながら、ある夜、下宿をおとすれたTNM(癌の分類ではない)氏らのねばり強い説得により、S氏はポート部への復帰を決意し、同時にそれまでの言動を反省し、より一層の努力を誓ったのであった。

この症例の様に、治療に良の反応し、健全な状態にもどった例を、我々は初めて経験したが、その後に発症した他の例では、治療が奏功せずに退部の転帰をとったものもみとめられた。ここに、その後の発症例もあわせて、病態を整理したいと思う。

### 「離脱症候群」

〔定義〕本疾患は、長崎大学医学部漕艇部部員にみられ、種々の原因による精神葛藤が母体となり、それがポート部活動以外の行動、発言内容、大学生活一般にまで影響を与える特殊な精神状態である。患者は退部を望んでいることが大きな特徴である。

〔疫学〕ポート部入部時には、その症状は発現しない。新入生においては、夏合宿終了後一年以内、入部四年を経て発症するものも稀ではない。二十%をこえ、不顕性のもも加えると半数をこえると思われる。

〔病因〕原因は、症例の様な自己中心的な性格、成績不良の他、肉体的欠陥、家庭内の事情等多岐に及び一定していない。

〔症状〕練習への不参加、意欲の欠如、時に先輩に対する反抗的発言及び、目つきを呈し、他部員と一緒に行動をさけるようになる。また、事あるたびに退部の意志表示をし、同級生をそそのかすこともある。ポート部からはなれる事によって、現状を打解し、より有意義な大学生活をおくれるはずであると思こんでいる。一見、我が道を行く様にもみえるが、内心では孤独を恐れているようにみうけられる。重要なのは、症状が出現せずに本人の心の奥の意志がある不顕性患者であり、部員の大多数がこの患者の予備軍とも考えられ、注意が必要である。

〔治療〕症状が発現すると治療はしばしば困難をきわめる。患者の先輩、同級生が患者との交流をより一層深め、注意深く患者の意見を聞き、患者の身になって当面問題となっている原因を解決するべく、努力するべきである。酒でものみに行ってみるのも良い。患者の心理の奥に、あたたかい手をさすべきである。特に、過去に本疾

患の既応をもつものは自らの経験を話して、ねばり強い説得が必要である。ボート部の楽しい面ばかりでなく、つらくきびしい面をさけて説得してはならない。とにかく、あきらめてはいけない。時間が、かかっても良いが、患者に対しておこつてみたり、つきはなしたりせず、意志疎通をはかる努力をおこたらないことが、ただ一つの治療である。

〔予防〕 日頃から、部員間における意志疎通をはかるため、ひんぱんに、合ハイ、合コン酒飲み会をするべきである。練習後のちよつと一パイも良い。先輩は後輩の話をよく聞く聞き上手になり、後輩は遠慮なく先輩に意見を述べて、究極的には、ボート部の発展と試合での勝利を目ざすべきである。

〔予後〕 治療が奏功した者については全く問題ない。ボートマンとして活躍するであろう。発症患者の半数は治療に反応しないが、不幸にして退部の転帰をとった者にも、ボート部の良さがわかる時があるであろう。よって、退部の転帰をとった者に対しても、先輩は、寄付金をとりに行つても良いと思われる。

最後に、現在長崎県内王者をつづけているボート部内には、種々の不平不満がうずまいていゝことであろう。不平不満をためてはならない。少しずつ小出しにして解決しよう。そして明日の勝利を夢みよう。勝てば再び新しい目標ができる。目標に向かってより一層の努力をしよう。

常に前進する男を育てるのがボート部である。先輩に負けぬ様、

すべてに頑張りたいと私は思つてゐる。

## 後輩諸君へ

学Ⅳ 中 崎 隆 行

もう大学へ入つて5年もたつてしまった。酒と涙と汗であけくれたボート部での生活がまるで昨日のように思い出されるが、もう二度とあんなに苦しい生活をしないですむかと思うと、ほつとする反面、非常に淋しい。

最も印象に残るレースは、学Ⅱの時に県漕で初優勝したときである。あの時の事は今でも鮮明に思い出され、あのような感激は、生涯もう二度とないのではないかと思う。

ボート部で得たことは、一言で言い表わせるものではない。朝5時から起きての合宿での練習や日々の苦しい練習に耐えることができたという自信。そして何よりもまして多くの素晴らしい友人を得たことである。昨年の琵琶湖での西医体のことである。準々決勝に勝つて翌日の準決勝進出を決め、滋賀医大の艇庫に霧島をなおした時、O君が霧島をさすりながら、「明日Aクルーに勝たせてくれ。」とお願ひしていた。僕はそれを聞いて、胸が一杯になって涙が出そうになつた。正直いって、もうメダルや勝敗なんかどうでもよいと思つた。自分がそういう素晴らしい友人に囲まれているということが、どうしようもなく嬉しかった。本当にボートをやっていて良かったと思つた。

後輩諸君へ

一、ボートは五人で進めていくということを常に頭に入れておくこと。

ているのです。

一、試合では誰でも頑張るのだから、試合の時だけいくら頑張ってもだめです。まず練習で頑張ること。

一、「練習だから」というような気持ちは捨て去ること。練習でできない事が試合でできるはずはないのだから。

一、練習で苦しい時にこそ、もうひと頑張りしなさい。それが練習です。

一、自分の限界を勝手に決めないこと。常に自分の限界に挑戦することこそ、意義があると思います。

一、ボートを漕ぐだけが練習ではありません。ランニングやウエイトトレーニングにもベストをつくすこと。

一、試合前からあきらめないこと。どんな強いクルーでも「絶対に勝てる」という自信はありません。気持ちで負けていては、勝てるレースでも勝てません。

一、最後までレースを捨てないこと。

一、何年か先に、きつとボート部に入って良かったと思うはずですよ。そのときになってもつとボートを漕いでいれば良かったというよりな後悔をしないように、今を一生懸命やって下さい。

## 五年前のある一日

学Ⅳ 永 見 耕 一

「ワシヤよかばい」豪快な鹿児島弁の飛び出す前原さん、OBの風格の成松さん、まさにボートマンの井上さん、薩摩隼人そのもの小村さん、フェミニスト村山さん、俳優風の水谷さん、軟派でキャプテンだった小倉さん、受験列車で隣席だった松尾君、練習見学のと

矢かきしり眼は 他の人も苦しく、同じクルーの人はみんな頑張っ

き車で隣席、ずんだれて、女たらし風だった今里君。右に挙げた先輩方、同輩の強烈な印象に圧倒され、ボート部入部を決めたのは、もう五年前のことになろうとしている。大学にはいったらボートをやろうなどとは全く考えてもいなかったし、自分の性格、体力などからテニス、卓球などの軽い運動が向いていると昔より思っていた。それが・・・。人間の運命とは不思議なものである。五年間と一言でいっても様々なことがあった。教えあげるときりがない。言えることは自分の大学生活は、ボートを中心に展開されてきたということだと思ふ。五年間に何度退部しようと思っただか、これも数えればきりがない。根気がなく、移り気な自分の性格のためだろうと思っただら、先日、某先輩（皆んなから、絶対にこの人ならやめようなどとは考えたことはないだろうと思われていた。）より、「オレもやめようと思ったことが何度かあったが、中途半端になるといやだったので、最後までやった。」というのを聞き、心救われる思いをした、と同時に続けて本当に良かったと思った。

ボートを5年やって得たものは何かと言われると返事に困るが、僕の場合、「耐えること」を覚えたことも、一つだと思ふ。

今年は、部創立十周年というのに部員の数が、ここ2・3年減少傾向にあるのは残念なことだが、高須君が復部してくれたのは非常に嬉しいことだ。何かの縁で入部したのだから、途中退部するようなことがあっても、最後までやって欲しいと思ふし、部員は復部してきた人を暖かく迎えるのが必要と思ふ。十周年を記念して、今年こそは新入部員をたくさん入れ、勢力のあるクラブにしたいものだ。



## 無題

学Ⅳ 永山雄 二

僕は、生来文章を書くということが不得意で、それに加えて、幸い、頭の中が国試のマルチヨイ式に適應してきたため、ますます苦手になり、部誌の原稿と聞いただけで病気になるりですが、がんばって書いてみたいと思います。

最近、クラブに顔を出して練習をみていたり、あるいは、いっしょに酒を飲んだりしているときに、よく、最近の後輩は、どうも覇気がないように感じて、仕方がありません。それは、決して練習をなまけるとか、いやいや酒を飲んでいるということではありませんが、与えられた事、決まりきった事をやるというだけで、それ以上でもなければ、それ以下でもないという気がします。

練習についていうと、僕は去年と同じ事をやっけてはダメだと思えます。進歩がないと思います。結果はどうであれ、みんなで工夫して、新しいことにチャレンジしてもらいたいです。そうすることによって、お互いにはげましあい、きたえあうことができると思います。さらに、そういう中から、クラブの和というものが、生まれてくるのではないのでしょうか。

また酒を飲むときには、下級生は、自分から唱を歌うとか、芸を出すとか（芸のなさでは僕も自信がありますが）飲みすぎてあばれるとか（これは、あまり感心しませんが、僕はよくやりました）そんな元気のよさを示してくれたらと思います。

欠点もないが、とりえもない、そんな人間にはなつてほしくありません。少々の欠点には、目をつぶります。豪快な人間になりましょ

次に部員をみていて感じることは、クラブに対して、ちよつとわがまますぎるのではないのでしょうか。自分は、ポート部という団体の中の一員だという事をわきまえていてほしいのです。

軍国主義的にクラブのために己を捨ててくなどと、たいそうなことをいうわけではありませんが、ときどき個人的行動に走りすぎているように思われるときがあります。

長い人生のうちの、たかが5、6年です。ポート中心に行動してもよいのではないのでしょうか。

久しぶりに文章を書くとなかなかのまとまりのなさに、自分でも感心しています。

大学生、しかも二十四才の文章とは思えません。しかし、まあ、ポートのレベルとしては、平均という所でしょうか。

## 老婆心ながら一筆

学Ⅳ 松尾圭一

五十六年度をもってポート部の現役生活を退き、今、三年間の記録を日記風に書き綴ったロイイングノート（コックス記）をパラパラとめくっている。引退するにあたり、このノートを参考に、現役生活の反省とポートの将来の展望について箇条書き風に思いつくまま述べてみたい。

○クルーをまとめるコックスとして一番気を使うことは、クルーの中からケガ人を出さぬようにということである。近年ストレッチ体操をとり入れ、柔軟性に力を入れていたようだが、そういう新しい試みをどんどん取り入れ、西医体前にケガをして他のメンバーに迷

○選抜クルーの選考はしばしば頭を悩ます問題であるが、やはり練習にまじめに来ることが登用の第一条件。体格、体力、技術よりもまず5人揃ってどれだけやったかというところで結果が出てくるようである。クルーが決まったら、あらゆる犠牲を払っても練習時間の5時にはきちんと集合してほしい。シエルは5人揃わなければ漕げないのである。そういう意味で、今年のAクルーのメンバーには、コックスとしてありがたいという気持がある。またそれなりの結果も出たようだ。

○Aクルーは、同学年の集団にならない方がよいと思う。

ぼくは各学年で一人モノになればまあ上出来と思っている。理想的には、コックスが5で、5432の学年構成、一人引退一人登用の形がよいと思う。5年ばかりのAクルーとかいうのは、来年の見通しが暗い。その意味でも教養生たちに奮起を望む。

○クルー編成時には、コンバートも多いので両方漕げる方がよい。だから、人数が揃わぬ時、冬の暖い日で暇な時などは、なるべくシングルスカルを漕いで欲しい。教養生でナツクルからシエルへの転向をする時など特にスカルを漕いで欲しい。

○昨年のクルーは、いいところまで行ったが、成功の大きな力となったのは、六、七月試験中の練習だったと思う。この練習は今後も続けて欲しいと思う。一週間に一度でもいい。Aクルーだけでもいい。5人が揃う試験の合間を見て子々川に行つて艇に乗って欲しい。

西医体前に一カ月もあけたのでは、春のレベルに戻ってしまい、勝てる訳はない。試験中に水の感触を忘れなければ、夏合宿の第一日目から、タイムが全然違ひし、夏合宿中のタイムの伸びも全然違ひ。試験にこだわって、この時期の練習ができないと

いうのなら、自らAクルーはおろるべきであろう。

○昨年のAクルーの問題点は、ラストスパートが全くでなかったことである。九州朝日では予選で西南大、準決で佐大コスモスに九百mまで勝っておきながら、逆転負けでトップを逃し、西医体でも、滋賀医とのラストスパートの差は格段なものであった。インカレにおいても、千五百までのタイムを見ると準決勝進出レベルであるのに、二千となると予選落ちである。この原因は、ずっと考えてきたことだが、まだよくわからない面もある。しかし、まず言えることは、絶対的なポテンシャルの差。そして漕法の問題であろう。この差が最後の正念場でピッチが上がらないという形が出るようだ。

ポテンシャルのアップは、これはもう冬場のトレーニングしかない。そして今までのやつより一歩進んだものをやらねばならない。幸い中里君あたりが積極的に冬場の練習法の改良をやっていたように、今年は一層期待している。また同じクルーでポテンシャルのばらつきをなくすことも大切だと思う。

それから次に漕法論となるが、長大漕法の現在の欠点は、キャッチのタイトができていないことだと思う。それにバックのとり過ぎもあるかもしれない。足蹴りをオールに十分伝えるために、体重を十分後ろへとばすために、インパクトの瞬間のタイトを身につけて欲しい。そのためにはフォワードスライドアップが大切になってくる。理論的に述べるのは容易だが、ここのコッスを身につけるのは、ポイントで最も難しい所、十分漕ぎ込んで体で覚えること。自分の考えるベストの漕法をイメージ的に頭で描きながら漕ぐこと。そしてそのイメージがクルー全体で統一したものであること。そのため、お互いクルー内で乗艇後に話し合いをもつことも大切である。そして、力(冬場のウエイトトレで身につけたポテンシャル)と

技（漕法）ボデイリイなキャッチ）が身についたら、レースのかけひきとして、千 m のレースなら五百 m あたりでセトルダウンができるように。そしてラストスパートでピッチも上がるだろう。しかし、セトルダウンができるまでに仕上がるには、やはり相当な漕ぎ込みが必要となろう。

○次に個人的な要望となるが、小林、日高の両君は2年間僕のボックスのもとで文句の一つも言わず素直に練習についてきてくれた。そして中崎君が抜けた後、今度は二人がAクルーをひっぱらなければならぬ。特に小林君は最上級生としてクルーをひっぱってほしい。大介君は将来のスイーパー整調として今年も大きく飛躍してほしい。もつと肉をつけよ。中里君は昨年後半は中崎君の抜けたバウの穴をよく埋めてくれた。今年も力と技を磨き、フロンティア精神で新しいことをどんどん取り入れてほしい。

今年一番頑張つて欲しいのは、矢次君と松岡君。キャプテン今里君をもちたてて、クラブ全体をひっぱってほしい。また、今年のBクルーを立派なクルーに仕上げる大きな仕事がある。クラブ全体としてみた場合、Bクルーは、最も大切なクルーだと思う。Bクルーが強いと、成績が全体としてよい。AもBに負けてはならじと励みになる。そして将来のAクルーの育成という面もある。自ら若い教養生たちと競争して高めあつて欲しい。小林君の後継、次は日高君の後継を育てながら自らもAクルーの座にチャレンジして欲しい。

○昨年は琵琶湖にてやっとの思いで決勝進出銅メダルであった。今年はいよいよ地元九州で、もう一段上を狙う。できれば金メダルが欲しい。しかし、いつもチャレンジ精神、ダークホース精神を

を大きくもつて常に2階微分が正の上昇カーブで前進して欲しい。西医体でチャンピオンになったら、九州朝日、そして国体、全日本と大きくはばたいてくれ。県漕もなめるな。ちよつと油断すると佐工専に喰われるぞ。

これからOBはどんどん増えるが、肝心の現役部員が尻すぼみではいけない。練習が厳しいと恐れられて新入生が入ってこないのも困るし、練習を甘くしても困る。難しいジレンマがあるが、みんな団結してボート部をもちたてて行こう。卒業まであと一年あるのでまだ僕も現役部員として頑張ります。

○僕の言いたい事まとめ

1. ケガをせぬように
2. 練習にやる人は強くなる
3. スカルを漕げ
4. 夏合宿前の試験中の練習が大切
5. ラストスパートの出るクルーに仕上げよ  
(ポテンシャルのアップとボデイリイなキャッチ)
6. Bクルーを育てよ(若手を育てよ)教養生頑張れ)
7. 県漕をなめるな
8. 唐津で金メダルをとりたい(ダークホース精神を忘れるな)
9. 最後にボックスとして僕の好きな言葉

Let her run under you

シエルの代名詞が her であるところがまた渋い。フワードを大切に。これが全ての基本だと思ふ。

## 大袈裟に云えば

学Ⅲ 今 里 雅 之

過去を振り返り、楽しかった時、苦しかった時、どちらが今の自分を作ったかと云えば、問題なく後者であり、自分で幸福だと思っていた時期は、空白として、想い出される。

自分を成長させるのは、(こういう事を文字として表出するのはおこがましいが) 決して、苦しみ悩んだときである。それは、その時、自分というものを深く考えるからであり、苦しみをなくしようと努力し、頭を働かせるからに違いない。持続的な、安らかな、生きていく喜びを感じるのは、sexとかギャンブルで儲けた時とかの刹那的な快樂時ではなく、自分が成長し、高められていると感ずる時である。

スポーツは、苦悩の中にある時でも、その発汗と身体の適度の疲労により、必ず苦悩による落ち込みへの微分係数を0または+に変えてくれる利点がある。スポーツによる身体的な苦しさは、必ず報われるから、苦しめば苦しむ程、後に「良かった」と思うものである。理由なく楽しくなることは、素晴らしい事である。酒では、体を壊す危険があるし、過度で退廃的となる。(といつつも、毎晩酒を飲む自分はなんだ)

理想と現実にはギャップがあるものであり、理想が現実に肉迫したとき、成長は滞るものと思われる。

学生と社会人との違いを考えるにあたり、時間、経済、社会的束縛等いろいろあろうが、少々の間違い(甘えかもしれないが)は許されることに学生の活力の由来があると思いたい。中途半端な利口者より、破格な「挑戦者」を愛する者として、後輩諸君に小さくま

とまった如才無き者になって欲しくない。

他人(周りの人間、同級生)がなんと云おうとも、高い理想を持つことにより、向上心に活力を与え、持続する苦しい努力により、潜在力を高め、気がついたら他人も羨む業績が残っていた、という若者の集団に我がボート部をしたい。

その能力を皆持っていると思うのである。

## 祈 念

学Ⅲ 小 林 誠 博

年の始めの家々では、神棚があればこれに拍手を打ち、仏壇があればこれに合掌。先祖のお墓を清らかにして水をそそぐ人もあれば、神社に参拝し、寺に参り、教会でひざまづく人もある。鐘が鳴り、灯がゆらぎ、香が漂う。人々の顔は、明るく神妙である。

誰もが何かの祈念を捧げているのであろう。手をあわすひとときの間、心をすまし、思いをひとつにこらし、ひたすら祈りのなかにいる。そこには反省もあろうし、感謝もあろう。願いもあれば、誓いもあろう。人間だけが成し得る敬虔なひとときである。素晴らしいひとときである。

人の世、知恵も大事、力も大事。そして財も大事、策も大事。しかし何よりも大事なものは、これらがすべて、この素直で敬虔な祈りに裏付けされていることであらう。そこから人間としての道が始まる。

年の始めに祈念があるならば、月の始めに祈念があってもいい。そして毎日の始めにも祈念があってもいい。日々刻々、祈念の歩みであっていいのである。

## 第九

学Ⅱ 日 高 真

年末には「第九」が恒例となっている。「第九」とは、もちろんベートーベン作曲の交響曲第九番「合唱付」二短調作品125番の事である。四楽章の合唱の詩はシラーの作である。初演は一八二四年五月七日、ヴィーンのケルントナートーア劇場にて、ベートーベン指揮で行われた。彼は聾だったので、実際はもう一人、ウムラウムという指揮者がいた。ヴィーンの聴衆の非常な熱狂も、一時的なものであった。やはり彼等は、ロツシーニに代表されるイタリア好みであった。

ベートーベンと言えば、やはり交響曲が素晴らしいと思う。一般的だが、三番、五番、六番、九番が好きである。三番「英雄」はナポレオンとは切っても切れない。五番「運命」においてベートーベンは、恐怖、悲劇、運命に対して戦闘を開始している。五番には、強い気迫、不屈の精神、そしてそれらの勝利が感じられる。六番「田園」は牧歌的で、彼自身も、「私は森の中で幸せである。」と言っている。しかし、耳の疾病に悩まされ、有名な「ハイリンゲンシユタツトの遺書」を書き、自殺寸前まで行ったことを忘れてはならないだろう。九番はもちろん一々三楽章も素晴らしいが、四楽章がきわめつけであろう。

ベートーベンばかりでなく、バロック音楽のシンブルな所や流麗な所、モーツアルトの高貴な、エレガントな所も好きである。ベートーベンよりもメロディアスであろう。バロックはよいBGMになる。また、シューベルトのリートやシヨパンのピアノ曲も珠玉の美

決してない。もともと優劣を比べられるような問題ではない。

それでもまあ、第九が最も好きな曲のひとつである事は確かだ。不幸な一生を送った男が、このような歓喜の頌歌を歌いあげたのである。これまで同様、将来も数限りない人を感動させるだろう。ベートーベンは、もちろん多くの人の影響や恩を受けたわけではあるが、最終的には、彼個人の頭が偉大な曲を創ったのである。これは音楽に限った事ではなく、すべての芸術に共通している事であろう。もし彼が子供の頃死んでしまっていたら、我々は現在よりも不幸な状態にあるだろう。

揚げ足を取るだけの批評家になるのはやめよう。感動できる心を持ちたい。

### 免疫学的ほれたらうわきはできません説

学Ⅱ 松 岡 直 樹

ヒトに於いて思春期、二次性徴も発現するちようどそのころ、生来そなわっていたすきすき神経は急速に成長を遂げはじめ、来たるべき壮大かつ神秘的ドラマにそなえはじめる。

彼はある日、ある女性をとて好きになった(恋かな現象)。自分の一生をかけるに値すると信じた(思いこみ現象)。この二つのすてきな情勢はすきすき中枢を強力に刺激する。すると次の如き諸反応を呈する。

まず、すきすき中枢から下位中枢へ特殊なインパルスが送られる。すると神経分泌により、特異的T cell 活性物質(STA)が放出される。STAはそこですきすきT cell を活性化する。活性化されたすき

識し、ある抗原抗体反応をおこす。この反応はすこぶる快感である（私しあわせ症候群）。一方 S T A はうわき Killer T cell も同時に活性化し、上記の抗体以外の体液に対しては（特に似たタイプに）即時性の抗原抗体反応をおこし、急激な性欲の減衰をまねくよう作用する。こうしてヒトのヒトたるすきすき現象は成立し、うわきはできなくなるはずである。しかし近年の研究では、やはりこの免疫反応にもトランスは存在することが明らかになっている（倦怠期）

以上が概論であるが、実は私もすきすき抗原抗体反応の真最中のようである。余談ではあるが、大半のポート部員ではうわき Killer T cell は活性化されていない。

## 酒とポート

学Ⅱ 矢次登

どうも体の調子がよくないせいかわれつ後の後などは、もう動けなくなる。こういう時、食事など喉を通らずひたすら酒を求める。この酒がまたりまい。胃のあたりからジーンと熱く吸収され、全身の疲労しきった筋肉にしみ込む感じはなんともいえない。意識は次第に薄れ疲労と酔いがうまくバランスした時、私は死んだように横たわっている。だが、あまりのきつさに眠ることはできず、ぼんやりとテレビを眺めている。そして充実感を味わう。

ここ一年コックスだったがバリバリ漕いでた頃、漕いだあとに飲むビールはもう涙が出るほどうまかった。

ポートはひじょうに激しく苦しいスポーツであるが、酒には最高のソースであるようだ。酒をこの上なくうまく飲める私は幸せかもしれない。

## 只管打漕

学Ⅰ 高須勝也

ポートはいい。四人が心と体を一つにして只管漕ぐ。海の上では、クルーは一心同体である。皆が一樣に苦しいと思いつかの間の休息に、一樣に安らぎを覚え、沈みゆく夕日を見て、一樣に美しいと思う。これこそポートの妙味である。いくら厳しい練習を積んでも、試合で千メートルを漕ぐ苦しさは、減りはしない。決して征服できないところにロマンが生まれてくる。

ポートとかなわぬ恋とは高いレベルで同じ次元のものだと思う。対面しているときは、自分の非力さを痛感させられて、辛くてたまらない。けれども、しばらく離れていると、無性に恋しくなる。そして燃えてくると、他の事一切が小さな事に思えてくる。女にコケにされると、やたらポートが漕ぎたくなるのも同じ性質のものだからではなからうか。

けれども、ただ一つポートの方が勝っている点がある。それは、恋の努力は必ずしも報われない。徒勞に終わることがしばしばあるが、ポートは決して裏切らない、努力に素直に伝えてくれるという点である。一週間、頑張れば、それ相応の成果が得られる。

今、勉強のみをやっていた時期を振り返ると、失敗だったと思うし、後悔している。と同時に、だからこそ残された数年間を、ポートに燃やし尽くそうと思っている。

最後に、今一番やりたい事。免許をとったら、三十万円で車を買って、バリバリ乗り回したい。

## 艇速をもっと上げる為に

学一 中 里 貴 浩

昨年の夏、私はインカレに出場するAクルーに随行して戸田に行きました。Aクルーの洗濯に始まり、タンツエンまで一緒にさせられるという日々でしたが、一日の大半はコース脇で練習を見て過ごしました。もとより見ただけで全てわかったというつもりはないのですが、一見して我々と違うことも多かったので、それをお知らせし、それに伴う考察を書き記したいと思います。(以下デアル調で書きます)

### (1) 体について

背丈があまり変わらない漕手でも概して我々より大きく見える。これは本場の漕手であるという後光効果によるものではなく、我々よりも筋肉が良く発達しているからである。特に上半身の充実の具合は素晴らしい。我々の中の誰かが戸田に行き、ボート部員だとしても信用されないだろう。腕は細く、背筋の発達も悪いからである。スリムな体では強いオールは引けないことを思い知るべきである。彼らに追いつこうと思うなら、まず、一見して劣っている上体の力をもっと鍛えねばならないと思う。これまでもウエイトトレーニングは行なわれてきたが、質、量ともに貧弱である。量についてはというと、日漕コーチ教本によれば一回の練習で一人当たり11t(シニアクラブレベル)を挙げるべきだとあるが、我々は今年の一月の段階で5t程度しかこなしていない。質の面では、第一に個々の体力に応じたメニューが組まれていないことが挙げられる。我々の間で最大筋力のばらつきは、一律の負荷を課せる程小さくない。

2に負荷を等速で動かしていない。これは、けんすい、カール、ベンチプル等によく見られる。はずみをつけて動かすと、一部の関節角度でしか筋肉は鍛練されない。ボートは水を相手とするので、全ゆる関節筋角度で筋肉は強さを要求されるから、慣性を殺して負荷を動かす事が必要である。(但しクリーンのはぞく)。第3に各種目に対する理解が不足している。肩巾以上に足を開き、その上、つま先を開いて、スクワットをする人がいるが、これはボートに必要なスクワットをしているとは言えない。クリーンについて言うと、これはパワートレーニングという範ちゆうに属する種目で、神経系の協調のもとに、瞬間的に発揮する力・・ボートの場合、キャッチの瞬間のタイトと足蹴りの強さを養成する為のものである。休みでもいいから正しいフォームで爆発的にやらねばならない。息を切らしてフォームを乱せば故障を起こしやすい種目でもある。40Kgのクリーンもできないような漕手は、どんなにスクワットが強かろうとも、タイトができず、また、キャッチのぬたった漕手であろう。日漕コーチ教本によれば体重+10Kgの負荷で3回反復を目標とする事とある。

### (2) バランスについて

戸田では強いクルーは完璧なバランスを保っている。Aクルーは戸田に限らず、子々川でもバランスは悪かった。まずフォワードの動きが、横から見て明らかに合っていない。かった事が挙げられる。

トロークの強度の不ぞろいである。(Aクルーは、個々の最大筋に  
関していうと、下から数えた方が早い者からトップクラスの者まで  
いて、そのばらつきは大きい。)この不揃いは、全力を絞り出す足  
蹴りや、スパートの時に大きく表われて、バランスの崩れや、サイ  
ドの組み方によっては艇の曲がりを起こさせるだろう。これを防ぐ  
には、クルー内の最大筋力のばらつきを小さくせねばならない。二  
つめが、コックスの体重―正確には、設計体重より軽い漕手と重い  
コックスから生じる前後の重量配分の崩れ―というべきものである。  
元々、浮き上がりやすいバウが、より上下に変動するようになりピ  
ツチングを招くし、フィニッシュでバランスを崩しやすくなると思  
う。因みに霧島はコックスが50Kg、漕手が70Kgで設計されている。

### (3) ピツチについて

戸田で見たクルーのピツチは、コンスタントで34、36、スパート  
では40を越えるというパターンが多かったが、Aクルーはコンスタ  
ントで31、スパートで34という所であった。31で34と同等の艇速を  
得ている間はいいのだが、スパートでぐんぐん離されるのは良くな  
い。スパートの艇速の伸びが悪いのである。ピツチを上げて艇速を  
伸ばすには、フォワードの時間を短くする事とトロークの強度を  
上げる事の2つが必要である。フォワードの時間はともかく、スト  
ロークの強さは、パワーや最大筋力の大きさに比例するのだから、  
スパートで艇速を上げるには陸上の練習が必要であることになる。  
因みに、水上の練習やタンツェンでは、最大筋力は増えない。100  
回以上もできるような運動は筋力の最大性の増加に効果的な刺激と  
は言えないからである。但しパワーや、筋持久力を含めた全身持久  
力には効果がある。

### (4) 疲労・コックス・故障・その他

我々が艇をお借りした法政のエイトクルーは試合が近づくにつれ  
練習量を減らしていた。試合の2、3日前から一回30分の乗艇を日  
に2回する程度で、内容も500m以上パドルをする事はなかったと思  
う。法政に限らず地元クルーは激しい漕ぎこみなどしてはず、フル  
コースも漕いではいなかった。彼らがそうした理由は、

①持久力は3、4日で作くものではなく、また衰えるものでもな  
いという事を知っていた。

②激しい練習で疲れを試合に持ち越し、スピードを低下させる事  
を恐れた。

以上2つである。しかるに、我々は、この2つの事を考えずに  
前日にフルコースのレースをし、試合に疲労を持ちこんでいる。こ  
うした現状では、「疲れがたまっていて蹴れませんでした。」とい  
う声がある試合の後、出たのも当然だろう。漕手をベストの状態で  
試合に出す事にこの時期のコックスは専念すべきである。試合当日  
まで疲労を持ち越させ、リギングが悪くてもそのまま無理にスター  
トにつかせるようなコックスがいるクルーは、勝てないと思う。同  
様に「故障」という問題にも練習計画を作る立場の人が関与する場  
合がある。それは主にウオーム、アップの不足に関する場合だが2  
つ例を挙げる。冬期体が冷えきっている時にランニングで900m程の  
タイムトライアルをさせられた事がある。走り終わった後の足の痛  
みはしばらく横になって、うなる程であった。それから、2か月を  
過ぎて、「あれ以来、足のここが痛む。」と言う部員がいるよう  
である。その21練習で他艇より遅れて出艇したあるコックスは、  
先にペアで出た艇が500m程漕いで上がるうとしているのを見つけ、



ウォームアップはとばして、ナツクルでペアレースを挑む。この時の筋肉痛は翌々日まで続いたそうである。こうした事は漕手生命を無理に他人が縮めている例であるとも言えよう。「故障をするな」と言うならば、ウォームアップは十分にすべきだし、故障を起こしてもしようがないような事をさせてはならない。もっとも故障の予防には各自が努めるべき部分も多いのであり、裸足やサンダルでランニングをするなどまっ先にやめねばならない事だ。これに関してストレッチングが有効だと思うので中山君に紹介を書いてもらった。各自、自分と自分のクルーの為に参考にしてほしい。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

#### ストレッチングについて

従来のいわゆる柔軟体操は、反動をつけて無理やり伸ばすやり方が主流でした。これではいきなり大きな力が加わるため、筋繊維や毛細血管に小さな断裂を生じたり、伸張反射によってかえって筋を硬直させてしまうおそれがあります。

このような欠点をなくすため、近年広くとり入れられつつあるのが、ストレッチングとよばれる体操です。無理なく筋や腱を伸ばせるようにいろいろと工夫されており、次のような効用があげられています。

- ・ 血行をよくする。
- ・ 筋肉の凝りがほぐれ、身体全体がリラックスする。
- ・ 身のこなしが軽く、しなやかになり、身体全体のバランスがよくなる。

防できる等。また、ストレッチングは非常に種類が豊富であり、目的に応じて様々なプログラムが組めるのも特徴です。

#### 戸田遠征に参加して

学Ⅰ 中 山 大 介

昨年夏、戸田オリンピック漕艇場において合宿の後、全日本大学選手権に出場させて頂きました。戸田遠征にあたっては、艇や艇庫を提供して下さった法政大学のみなさん、適切な御助言を賜わりました青木勇先生、懇切に励まして頂いた井上健一郎先生をはじめ、沢山の方々のお世話になりました。この紙面をお借りして、厚く御礼申し上げます。

戸田ではひぐらし、全国から集まった幾百というクルーを眺めて暮らしました。二つとして同じ漕ぎをしているクルーはありません。強いクルーから弱いクルーまで、皆一つの理想に向かって様々なアプローチを試みています。自らの漕ぎについても考えさせられるところ多く、その一部をいくつか述べてみたいと思います。

なお、注目すべきいくつかのクルーについては8ミリに撮って頂いています。どうぞご覧になって下さい。

#### キャッチ時の body-tighting

強いクルーのキャッチは蹴りが鋭く、しかもそれをブレードに伝える過程に隙がありません。上体のガタをなくすためにはbody-tighting が必要です。しかし上体をガチガチに固定することとは禁物で、あくまで上体は柔軟に保ち、逃げゆく蹴りをうまくつかまえることが大切です。

いくら鋭い蹴りでも、空中を漕いだり、ブレードがたつぷり水につかっただけから蹴ったのでは大きなネガティブワークになります。ブレードの先端角が水をとらえた瞬間をのがさないことが大切です。以上二点は、尻逃げとバックスブラッシュから縁の切れない僕が強豪クルーを見て特に強く感じた事柄です。

#### フィンニッシュ

驚いたことに法政では、「胸まで引くな、大きく丸く」と指導していました。レンジの短い典型的なキャッチ重点の漕ぎで、最後に腕で引くというよりは物凄いキャッチのインパクトでもってそのまま水を突っ離すという感じでした。東北大のフィンニッシュは、我々の表現では「腹に落とす」ものでありながら、腕引きのよききいた非常に力強いものでした。

#### フェザー

単にアウトサイドハンドで引き下げて、その直後にインサイドハンドでフェザーにかえせばよいのですが、クルー全体のタイミングを合わせるのには簡単ではありません。特に我がクルーではフェザーの不揃いなが目立つようです。八枚のブレードが全く同時にターンしているエイトが戸田ではめざらしくありません。

#### 空中におけるブレードの高さ

キャッチ、フィンニッシュ、バランスなどに密接な関係があります。我が部の方針は、「ターンに支障なく水面に当たらない程度にできるだけ低く」ですが、戸田では波の影響が無視できるにも拘らず、グリップを下げてガネルを擦るように高くフェザーしているクルーも見られました。

#### クルーの視線

各人の視線がバラバラであると、クルーのユニフォームカラーは失われ、艇のバランスも悪く、よいことはひとつもありません。驚いたことにそういうクルーが戸田でもめざらしくないのです。視線の統一は大切なことですが、意外と見過ごされがちなものかもしれません。

#### 頭の動き

真直ぐ前を見て頭は水平にドライブさせるとするのが最も自然であり、疲れも少ないと思われれます。しかしながら、滋賀医大はキャッチするやいなや上体のあおりを助けるように空を仰ぎますし、下を向きながらフォワードし、ぐっと顔を起こすようにキャッチしているクルーも少なくありません。

#### 試合直前の練習

大会を数日後に控えた戸田では、フルコース二千米を何本も漕いでいるクルーは見あたりません。多くは三百米や五百米、あるいは千米などを繰り返す練習をしています。レースを間近にしてのロングパドルは、スピードを落とす危険なきにしもあらず、とは言えないでしょう。

#### ピッチ

我がクルーはストロークの長さについては他とくらべて遜色がありませんが、ピッチがなかなかあがらず、スパートの伸びがいまひとつです。戸田ではフォアでもコンスタント35、36、スパートでは40にも達するクルーが稀ではありません。もっとシャープに蹴り、腕の引きを強力にして無駄なバックスウイングをなくすることができれば、まだまだピッチの上がる余地は残されているものと思われれます。

## レガッタとキャンパス

学Ⅰ 山 田 稔

クラブレピーハンドブックによれば、ボート競技は、まさに理想的なスポーツなのだそうです。

なぜかという、ボートすなわちレガッタというスポーツは、ハードであるがゆえに、相当量のトレーニングをしなければならぬ。したがって体力が付き、また、ねばり強く、協調性のある性格をもつくってくれる。しかし同時に、多くの時間を費すために、レガッタをやっている学生は、パーテイーとスタデイとレガッタを3つとも十分に堪能することはできないとも書かれています。

僕はこの記事を読んだとき、マイナーであると思っていたボートというスポーツが、大いにその効用を認められているので、とにかく嬉しかった。

これからも頑張るぞ！

## 気分は . . .

教Ⅱ 青 木 幹 弘

大学に入ってから割とけだるい生活を続けてきた。その中でのアクセントと言えば、テストとボート位であった。バイトも多少のメリットがあった。

それに対して授業内容の貧困なことといったら、高校時代の僕のサイフの重さと同じだ。そこで、何のために大学に入ったのか。おそらくは、良い医者になり、つまり現状の医者への腐敗(?) 状況を見て、

部の新歓で末永さんが僕の隣に座ったことも偶然だとすると、偶然に対する考え方もちよつと変わってくる。

彼女ができるわけもないから、クラブに入るのも、オツなものではないかと思うのだがなんでこんなにきついねん。地獄の苦しみである。小学校の頃から運動が苦手な僕は、サークルでは文化系を当然志望し、アタリもつけていた。それなのに、適していないのにボートに入った。それはすべて、気分が流される、つまり優柔不断な性格によるものである。末永さんに新歓で長々とボートその他について説明してもらった。誰も説明せろ、などとは言っちゃいないのだが . . . すると「ここまで説明してもらって入学しないと悪いんでないかい」という考えが頭をもたげてきたのである、亀のように。それが現在のすべてである。僕は気分が流される、この一見アホともとれる性格を直さないと将来困るのではないかと、日夜悩んでいる。女性関係の悩みがないから、この手の悩みが浮き出るのであるかとも思う。いずれにしてもボート部万歳。

## 一年を振り返って

教Ⅱ 金 色 正 広

縁あって四月にこのボート部に入部して以来、早いものでもう一年になるうとしている。振り返ってみるといろいろなことがあった。

・ 四月 初めて漕ぐボート。オールで漕ぐというよりオールに振り回わされていた。

・ 五月 初めての合宿、週三回から一日三回

入ったことに戻して、僕は偶然を喜ばしいものと考えていた。医学

・七月 夏合宿、五時起きをつらさ、炎天下の一日三回乗艇、バ

ウサイド欠員で山田さんと交代で一日四回乗艇も数日。  
憎たらしいほど好天に恵まれ、めちやくちやにきつかつた。西医体―練習のいかなく準決にはいけず―残念。

十一月 熊大対校 宮城杯

寒空の練習、ブレードを包む夜光虫の美しさ、またも敗退

こうしてみると辛かったこともなつかしく思えてくるから不思議である。しかし、よく考えてみると、勝ち々というものは西医体の一次敗復での一回しか味わっていないのである。

そこで今年の目標

- ・とにかく一回でも多く勝つこと
- ・オールを一本折ること

## ボート部一年生を終えて

教Ⅱ 坂 本 章

今、大学に入ってからこれまでの、ボート部としての活動を思い出してみると、輝きを感じるのには、四月五月、ボートを漕ぐことが非常に楽しく思えたこと（これは練習がきつくなかったというだけかもしれない）、長大祭でバザーを出して、みんなで忙しく働きまわったこと、練習が終わるたびに飲みに行ったこと、合ハイをしたこと、まっくらになってがんばった夏合宿、今の僕からは考えられないくらい気力が充実し、やる気満々だった西医体、いろいろとむずかしいこともあり、みんなで下宿に集まって頭をしぼって計画を立て、券を売りに走りまわったダンスパーティー、これはとても大成功とは言えなかったがたいへん楽しかった。

このように今までのことを思い起こしてみても考えることは、どうして前期にくらべて後期のボート部に対する僕のイメージが、もうひとつぱっとしないのかということである。いろいろと考えてみた。初めはコンバが少なかったとかいうように考えていたのだが、陸トレに入ってから、足の炎症を起こしたり、ねんざをしたりして練習を休むことが多くなつて初めてその理由がわかった。

それは、宮城杯の前に試合、練習に対して自分が逃げ腰になっていて気力を充実させることができなかつたということが原因だつたようだ。きついことをいやいやながらやれば成果はあがらないばかりか、よけいに苦しくなるというのはすぐにわかることだ。

結局、ボートを楽しいものにしたいのなら積極的な態度で望む以外にないと思つた。

そこで、春から始まる子々川での練習を前にして、僕は積極性というものを一番大切にしていこうと思う。

## 〈昭和56年度行事番外編〉

昨年は、九山優勝、西医体三位入賞をはじめ、話題の多い年でした。ここでは、そうした話題の中から、正式行事結果に載せられなかったものを二つ紹介致します。

### その1 「TV出演記」 日高真

八月末の全日本へ向けての練習が、長崎放送の夕方のニュースで長崎県下に放送された。結構長く、五分以上あっただろう。撮影されたのは、Aクルーの五人と、キャプテンの永山さんと、前キャプテンの山近さんと、モーターボート運転の松岡、矢次の両名であった。しかし、山近さんは勉強の為すぐ帰ったので少ししか写らず、松岡、矢次は、ユニホームを着てがんばったが全然写らなかった。対照的に、永山さんは、モーターボートの上でさっそうとした姿が写し出された。Aクルーは言わずもがなである。インタビューを受けたのは、クルーの五人と永山さんの六人であったが、放映されたのは、小林と小生の二人であった。何故二人が選ばれたかは不明である。マスコミの力はたいしたもの、多くの人から「見た」と言われたが、気持が悪いということはない。

練習の障害になるようではいけないが、マイナーなスポーツであるボートを、少しでも知ってもらえてよかったのではないかと思う。

### その2 「学内駅伝」 (57年1月23日)

年も明け、初漕ぎも終わってしばらくした頃、全学体育会主催で大学構内とその外周を用いて、駅伝大会が行なわれた。午後2時に50チーム程が一斉にスタートを切る。我々のスタートは、クラブ一

「3位内で戻る」と豪語していたが、当日は不調で30番台で2番手に、たすきを渡す。

2区の松岡は「気分の松岡」の本領を発揮し10人抜きを達成。続く3区、「気分は青木」の青木は2人抜きであったが、何故か区間賞を獲得。4区、軽量の金色は俊足を生かし3人抜き。5区、一年の雪辱を果たさんと出場した日高さんは、1人抜かれに留まり、次回に再起を持ち越した。6区、3人抜かれぐらいいは覚悟していた高須だが、何と1人を抜いてアンカーの中里につなぐ。彼は現状を維持し、そのままゴール。総合21位で1時間22分38秒の闘いは終わった。

## 昭和 5 6 年度 会 計 報 告

( 支 出 )

・ 試合遠征費 ( 交通費、宿泊費等 )	
九 山	6 8,0 0 0
九州朝日	7 9,1 0 0
西 医 体	4 8 6,5 0 0
・ 試合エントリー費	
九 山	1 2,0 0 0
九州朝日	1 6,0 0 0
県漕 ( 含 漕艇協会登録費 )	2 0,0 0 0
西 医 体	8,4 0 0
宮 城 杯	4,5 0 0
・ 合宿費 ( 食費、宿泊費 )	
春 合 宿	1 1 3,3 4 2
6 月合宿	2 3,8 1 5
夏 合 宿	1 2 9,3 8 7
・ 艇運送費 ( シエル 1 艇 + オール )	
九州朝日	4 6,2 3 0
西医体 ( 琵琶湖 )	1 0 5,4 4 0
・ 艇修理費、部品代 ( 含オール代 )	
ガソリン代	2 0 7,8 1 7
・ 卒業記念品代、結婚祝い代	
事務費、雑費 ( ハガキ、切手代 )	1 5,0 0 0
・ ライトエース車税	
小 計	5 7,0 7 0
小 計	3 0,5 0 0
小 計	1,6 3 0,4 6 3

( 収 入 )

部品負担金

部 費	2 1 1,0 0 0		
春 合 宿	1 9 6,0 0 0		
6 月合宿	5 4,0 0 0		
九 山	8 2,5 0 0		
九州朝日	9 9,0 0 0		
夏合宿、西医体	4 1 4,0 0 0		
バザー・ダンパ・コンパ収入	9 6,0 9 0		
OBからの寄付金	5 4 9,9 8 9		
前年度繰り越し金	- 2 4,1 1 8		
小 計	1,6 7 8,4 6 1	合 計	4 7,9 9 8

昭和56年度 長崎大学医学部漕艇部OB会 収支決算報告

入の部)

(1) OB会会費	440,000
(2) 寄附	536,000
(3) 繰り越し金	474,819
(4) 預金利息	6,528
小計	1,457,347

出の部)

(1) 西医体遠征援助費	374,489
(2) 全日本選手権遠征援助費	223,050
(3) 熊大対校戦援助費	40,000
(4) オール購入費(1セット4本)	177,500
(5) 部所有ライトエース任意保険	67,010
(6) 雑費(郵送費, コピー代, お見舞, その他)	33,580
小計	915,629
収支残額(預金)	541,718

57年度 OB会支出予定項目

1) 漕艇部活動援助費	300,000
2) 新艇購入	1,300,000
3) ライトエース任意保険	60,000
4) OB会総会費用	10,000
計	1,670,000

## 昭和 5 7 年度 年間計画

3 月 2 1 日 ~ 4 月 3 日	春 合 宿
5 月 1 日	九 山 ( 於 熊 本 )
6 月 上 旬	強 化 合 宿
6 月 6 日	県 漕 ( 於 形 上 )
6 月 中 旬	九州朝日レガッタ ( 於 遠 賀 川 )
7 月 1 1 日 ~ 8 月 5 日	夏 合 宿
8 月 7 . 8 日	西 医 体 ( 於 唐 津 )
8 月 2 6 日 ~ 8 月 2 9 日	全 日 本 大 学 選 手 権
9 月 1 1 日 ~ 9 月 1 2 日	国 体 ( 於 島 根 )
1 0 月 中 旬	強 化 合 宿
1 0 月 末 ~ 1 1 月 初	熊 大 対 校 戦 ( 於 熊 本 )
〃 〃	官 城 杯 ( 於 大 村 )

全日本と国体については未定



〈長崎大学医学部漕艇部OB会会則〉

第一条 本会は、長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。  
 第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部内に置く。  
 第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物質的な援助を行ない、あわせて部員の身体  
 の練成ならびに人格の陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものとする。  
 第四条 本会は、漕艇部OBからなる一般会員ならびに本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。  
 第五条 本会には左記の役員を置く

(1) 会長一名 会長を総理し、本会を代表する。  
 (2) 副会長一名 会長補佐する。  
 (3) 顧問若干名 会長の諮問に応じる。  
 (4) 総務若干名 会務の運営と会計事務  
 (5) 会計監査一名 会計を監査

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。  
 第七条 役員任期は、一年とする。ただし再生は妨げない。  
 第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。  
 第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。  
 第十条 本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。  
 第十一条 本会の会費は、一般会員より徴収し、会費額は年度ごとに総会において決定する。  
 第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。  
 第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。  
 第十四条 本会には左記の帳簿を備える。

- (1) 会則  
 (2) 会員名簿  
 (3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付則

## 長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿(昭和56年度)

	氏名	住 所	〒	電 話 番 号	
会 長	青木 義 勇	長崎市西山町1-50	850	(21)1874	細菌学名誉教授
副会長	村上 文 也	〃 平野町1-25	852	(47)5132	開 業 医
顧 問	宮城 重 信	〃 築町3-1	850	(23)2494	開 業 医
〃	辻 泰 邦	〃 西山町1-370	850	(22)6760	第1外科名誉教授
〃	須山 弘 文	〃 横尾町2-4-5	852	(56)1321	医学部長
〃	高 久 功	〃 本尾町4-15	852	(44)4087	漕艇部長
〃	尾崎 正 若	西彼杵郡長与町高田郷字木場151-25 自由ヶ丘団地16号	859-01	(56)5101	第2薬理教授
〃	山口 光 次	長崎市昭和町882	852	(44)5272	県漕艇協会理事・長
〃	吉田 恒 雄	〃 矢の平町2-19	850	(25)4979	県漕艇協会
世話人	木谷 郁 博	〃 大浦町8-16	850	(22)2964	開 業 医
〃	丹羽 正 美	西彼杵郡長与町高田郷1613-4	859-06	09588 (3)5871	長大第2薬理
会 計	川口 昭 男	長崎市中園町15-15	852	(47)5529	長大第2薬理

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿 (アイウエオ順)

氏名	住所	〒	電話番号		卒業年次
青木 義勇	長崎市西山町1-350	850	(21)1874	長大細菌学名誉教授	S6
阿部 義治	〃 光町18-14	852	(61)5774	開業	S15
井上 満治	〃 岩屋町511	852	(56)2711	〃	S19
岡本 英雄	島原市湊道町7024	855	09576 (2)2452	〃	S7
片伯部 貢	長崎市本原3	852	(44)3043	〃	S17
片峰 大助	〃 愛宕町3丁目11-7	850	(24)3312	長大熱研寄生虫学名誉教授	S14
佐藤 安雄	〃 本石灰町5-11	850	(22)0321	開業	日大
鈴谷 悦堂	〃 緑ヶ丘町1341	852	(46)2052	〃	S19
城谷 勝明	〃 諏訪町6-23	850	(22)6831	〃	S20
高木 聡一郎	〃 今博多町37	850	(22)2812	〃	S20
高久 功	〃 本尾町4-15	852	(44)4087	長大眼科学教授	東北大

氏名	住所	〒	電話番号		卒業年次
田川 段一郎	長崎市白鳥町7-20	852	(44)0966	開業	S7
田中 敏	住吉町3-11	852	(44)1770	〃	S16
辻 泰邦	西山町1-370	850	(22)6760	長大第1外科名誉教授	S16
宮城 重信	築町3-1	850	(23)2494	開業	T14
村上文也	平野町1-25	852	(47)5132	〃	S20
村田 農六	平野町22-21	852	(44)2460	〃	S14
山口 邦夫	薬山町286-30	852	(56)8664	〃	S14

長崎大学医学部灌漑部OB会一般会員名簿

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先、勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
石橋盟士	S30		1. 石橋整形外科病院開業 2. 長崎市中園町22-17			852	0958(45)6181
大須賀浩	S30		1. 大須賀医院開業 2. 長崎市弁天町17			852	0958(61)3576
木谷郁博	S30		1. 木谷医院開業 2. 長崎市大浦町8-16			850	0958(22)2964
清水武	S30		1. 榛原総合病院 2. 静岡県榛原郡榛原町細江3721-1			421-01	05482(2)2131
星野行弘	S30		1. 星野医院開業 2. 長崎市浪之平町37			850	0958(22)8702
長西靖	S46	長大耳鼻科	1. 広島鉄道病院 2. 広島市東日島13-27			730	0822(61)2251 0822(28)9568
冬野誠三	S47	九大 2内	1. 福岡日赤病院 2. 中央区薬院2-11-28 薬院パークホームズ703号			810	092(741)8966

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先、勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
松本 恵一良	S48		1. 浜寺中央病院 2. 大阪府堺市浜寺諏訪森町西1-28-2 「ロイヤル諏訪森」305号			592	0722(63)2121 0722(64)8828
峰 雅 宣	S48	長 大 1内	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市柳谷町4-13			852 852	0958(47)2111 0958(44)7031
朝 戸 須江夫	S49	東京女子 医大消化器 センター	1. 谷津保健病院(8月まで) 2. 千葉県八千代市台西8-12-1-11 (10月から鹿児島県大島郡へ)			276	0474(83)9020
内 田 隆 寿	S49	長 大 2外	1. 奈留病院 南松浦郡奈留町 2. 長崎市坂本町160			853-22 852	09596(4)2014 0958(46)0155
瀬 戸 信 二	S49	長 大 3内	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市宝町6-18 別館ビル401			852 852	0958(47)2111
早 田 篤	S49	長 大 小児科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市油木町9-6			852 852	0958(47)2111 0958(47)6281
田 川 泰	S49	長 大 1外	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市白鳥町7-20			852 852	0958(21)1181 0958(44)0966
富 海 五 郎	S49	愛媛大 精神科	1. 松山精神病院 2. 松山市東野町1-6-15 3. 下関市山ノ田中央町			790 750	0899(22)3211 0899(22)7329

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先. 勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
中野文耕	S49	長大 2外	1. 玉之浦国保療養所 長崎県南松浦郡玉之浦町玉之浦521			853-04	09598(7)2241
丹羽正美	S49	長大 2薬理	1. 長崎大学第2薬理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4			852 859-06	0958(47)2111 09588(3)5871
馬渡一雄	S49	長大 2病理	1. 長崎大学第2病理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎市大手町407-24			852 852	0958(47)2111 0958(48)1194
光藤一枝	S49		1. 国立福山病院 福山市川口町945 2. 国立福山病院官舎B棟			720	0849(22)0001
石川治	S51		1. 岡山大学第2外科教室 2. 岡山市鹿田町1-8-10 三信ビル305号			700	0862(25)4908
川口昭男	S51	長大 1外	1. 長崎大学第2薬理学教室 長崎市坂本町7 2. 長崎市中園町15-15			852 852	0958(47)2111 0958(47)5529
神田源太	S51	長大 皮膚科	1. 佐世保総合病院 佐世保市藤原町7-37 2. 総合病院日水公宅202			857	0956(24)1515 内線369
田中精一	S51	東京女子 医大消化器	1. 東京女子医大消化器センター 新宿区谷河田町			160	03(353)8111

氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先、勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
堤 健二	S 5 1	大 脳外科	1. 長大附属病院 長崎市坂本町7 2. 長崎市岩川町10-15	光和ハイッ		8 5 2	0958(47)2111 (46)8093
出口 正巳	S 5 3	長 大 形成	1. 愛媛県立中央病院 愛媛県松山市春日町83 2. 松山市中村町4-13-26 美川荘2F 3. 北九州市門司区中20-11-7			7 9 0 7 9 0 8 0 0	0899(47)1111 0899(32)2019 093(381)4624
土 居 浩	S 5 3	長 大 小児科	1. 大村国立病院 2. 諫早市永昌町244-1 ロイヤルハイッ正栄302号 3. 愛媛県宇和島市本町追手1-2-8			8 5 4 7 9 8	09572(5)1014 089964(2)1346
井 上 健一郎	S 5 4		1. 東京都立墨東病院 2. 江東区毛利2-3-5 吉村ビル403 3. 長崎市岩屋町511			1 3 5 8 5 2	03(033)6151 03(034)9274 0958(56)2711
江 口 圭 介	S 5 4	長 大 3内	1. 長大附属病院 2. 長崎市宝町6-18 別館ビル302 3. 佐世保市常盤町5-8			8 5 0 8 5 7	(47)2111 (46)1043 0956(22)4708
吉 良 満 夫	S 5 4		1. 佐賀国立病院 2. 佐賀市日ノ出町20-1 国立病院官舎			8 4 0-01 8 4 0-01	0952(30)7141 内線268
小 村 三代治	S 5 4	神 戸 大 小児科	1. 兵庫県豊岡市 豊岡病院 2. 昭和田6-20 医師住宅302号 3. 鹿児島県会於郡財部町南俣11211-3			6 6 8 8 9 9-41	09867(2)2355
成 松 元 治	S 5 4	長 大 1外	1. 長大附属病院 2. 長崎市扇町31-11 3. 佐賀市長瀬町6-24			8 5 2 8 4 0	(47)2111 (48)3204 0952(22)6844



氏名	卒業年次	教室	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	3. 帰省先	〒	電話番号
水谷明正	S54	長大 2外	1. 長大附属病院 2. 長崎市御船蔵町15-3 3. 鳥取県八頭郡八東町徳丸1098	1. トーカンマンション606号		850 680-06	(47)2111 (22)8541 08588(4)2252
小倉猛	S55	長大 3内 61-7143	1. 長大附属病院 2. 長崎県西彼杵郡長与町高田郷2273- 3. 同上	1. 青森県津軽郡今別町大字某月44		030-16	01743(6)2355
谷川宗生	S55	長大 3内	1. 長大附属病院 2. 長崎市泉町260 3. 神奈川県箱根町大平台395	1. 山田方		859-06	(57)0443
難波裕幸	S55	長大 精神科	1. 長大附属病院 2. 長崎市久原郷1001-2 3. 市営久原住宅キ棟第3号	1. 鹿兒島県薩摩郡薩摩町永野2554-1		852 250-04	(45)2811 0460(2)2562
前原洋二	S55	大村国立 病院 整形外科	1. 大村国立病院 2. 大村市久原郷1001-2 3. 鹿兒島県薩摩郡薩摩町永野2554-1	1. 市営久原住宅キ棟第3号		856 895-23	09575(3)9027 09965(8)0633
村山晋	S55		1. 長崎市昭和町10-12 2. 昭和町 3. 三重県伊勢市勢田町917-63	1. ショッピングセンター303号		852 516	(47)7255 0596(25)3722
山近史郎	S56		1. 長崎市滑石3-51-9 2. 同上 3. 同上			852	(57)4360

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

学年	氏名	出身高校	1. 現住所	2. 帰省先	〒	電話番号
学 4	岡 田 代 吉	大 村	1. 長崎市坂本町5-7-6 2. 長崎県東彼杵郡東彼杵町千綿宿1067		850-81 859-39	0958(49)0321 09574(7)0020
〃	倉 富 彰 秀	修 猷 館	1. 長崎市平和町12-4 2. 佐賀県神埼郡神埼町大学の1495-1	山里ビル601	852-11 842-01	095(47)6647 09525(2)3800
〃	末 永 俊 郎	門 司	1. 長崎市岩川町10-13 2. 福岡県北九州市門司区鳴竹1-14-16	可児方	852 801	(48)1710 093(321)2453
〃	中 崎 隆 行	豊 津	1. 長崎市江平町260-4 2. 福岡県築上郡稚田町稚田		852 829-03	(45)8887 09305(6)0325
〃	永 見 耕 一	山 口	1. 長崎市平和町28-7 2. 山口県吉敷郡小郡町山手下	堂園方	852 754	(45)4066 08397(2)2462
〃	永 山 雄 二	佐世保南	1. 長崎市坂本町13-52 2. 佐世保市須田尾町22-23		852 857	0956(31)4093
〃	松 尾 圭 一	大 村	1. 長崎市浜平町313 2. 大村市水主町747	佐藤方	850 856	(24)2941 09575(4)3662
学 3	今 里 雅 之	大 村	1. 長崎市平和町28-7 2. 大村市杭出津2-697-4	堂園方	852 856	(45)4066 09575(3)1253
〃	小 林 誠 博	小 倉	1. 長崎市本尾町181 2. 福岡県北九州市小倉北区日明1-13-8	宮崎アパート	852 803	(48)1077 093(571)5909
〃	平 野 友 久	長 崎 南	1. 長崎市西坂町3-14 2. 同 上		850	(22)6333

学年	氏名	出身高校	1. 現住所	2. 帰省先	〒	電話番号
学 2	日高 真	鶴丸	1. 長崎市本尾町338 2. 鹿児島県大島郡知名町田水団地12棟199号	末吉方	852 891-92	(44)6568 09979(3)3901
〃	松岡 直樹	長崎西	1. 長崎市西山台2丁目1-8 2. 同上		852	(46)2158
〃	矢次 登	長崎東	1. 長崎市本尾町7-3 2. 長崎県北高来郡高木町湯江西樋口名241		852 859-01	(44)7705 095732 3205
学 1	高須 勝也	佐世保西	1. 長崎市清水町5-13 2. 北松浦郡江迎町東江迎	田口方	852 859-61	(47)9509 09566(5)3417
〃	中里 貴浩	青雲	1. 長崎市本河内町64 2. 福江市福江町274-5		850 853	(22)6871 09597(2)3223
〃	中山 大介	佐世保南	1. 長崎市中野町7-18 2. 佐世保市三川内本町290	上野ヘイツ303号	852 859-31	(46)2635 0965(30)7033
〃	山田 稔	長崎西	1. 長崎市大島町9-36 2. 同上		852	(61)1752
教 2	青木 幹弘	青雲	1. 長崎市片淵町4-9-10 2. 同上		850	(21)3967
〃	金色 正広	東筑	1. 長崎市石神町32-19 2. 福岡県北九州市八幡西区茶屋ノ原団地38-13	石神寮	852 807-11	(47)9092 093-617-3062
〃	坂本 章	青雲	1. 長崎市泉町3-7 2. 佐賀県杵島郡大町々本通り		852 849-21	(46)5621 095282-5678

## 編集後記

本誌刊行にあたり御支援して頂いた会社は次の通りです。

(株)東七太郎商店

伊東薬品株式会社

大塚製薬株式会社

大村活版

科研精器株式会社

(株)九葉

三栄測器株式会社

三共株式会社

第一製薬株式会社

大栄堂器械店

武田薬品工業株式会社

田辺製薬株式会社

中外製薬株式会社

(株)重陽堂

トヨタビスタ長崎株式会社

日産サニー長崎販売株式会社

藤村薬品株式会社

北陸製薬長崎販売株式会社

やきとり いづみ

山下医科器械株式会社

(株)宮崎温仙堂商店

(アイウエオ順)

心からお礼申し上げます。

編集責任者 中里 貴浩

★漕魂も第七号を迎え、今回新たにOB紹介のページを設けました。

不躱なインタビューに応じて頂いた先生方、ありがとうございます。また、普段、お目にかかれないう先生方の御人柄にふれるとともに、漕艇部の歴史を知る事は、我々にとって有意義なことかと思えます。この企画、今後も続けていきたいと思えますので、よろしく御協力をお願いします。また、この企画に関する御助言をはじめ、刊行にあたり御理解と多大な御尽力を頂いた尾崎先生に感謝致します。

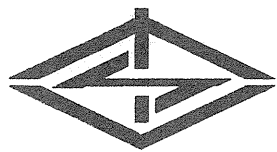
★御寄稿を頂いた先生方、どうもありがとうございました。今回は寄稿されなかった先生方も、次回は是非、御意見を御寄せ下さい。編集にあたり、不躱な手紙や電話、面会等を重ねました事を深くお詫び致します。

★3月27日のOB会に、モントリオールオリンピックでボート総監督をされた、青木勇先生をお迎えし、我々の練習も見て頂く予定です。また、宮崎医科大学が、九山のボート部門に新たに参加するかもしれない、という事も聞きました。我々も心を新たに、部員勧誘に努め、更なる飛躍を目指しましょう。

★「一艇ありて一人なし」と申しますが、ボートに関わる活動には、水陸を問わず言えるようです。この編集にも、私に対する叱咤・激励・助言・協力と形は違いましたが、多くの部員が参加しました。誰一人として刊行に欠かす事はできなかつたと感謝しています。

姓名	性别	民族	籍贯	出生年月	文化程度	职业	政治面貌	备注
王德胜	男	汉族	山西	1945	高中	教师	党员	
李国强	男	汉族	河南	1950	初中	工人	团员	
张为民	男	汉族	山东	1948	大学	干部	党员	
赵子龙	男	汉族	河北	1955	小学	农民	群众	
陈永年	男	汉族	浙江	1940	高中	医生	党员	
周树人	男	汉族	湖北	1952	初中	工人	团员	
吴大伟	男	汉族	安徽	1947	大学	教授	党员	
孙少平	男	汉族	陕西	1958	小学	农民	群众	
林秀英	女	汉族	福建	1942	高中	教师	党员	
黄志坚	男	汉族	广东	1953	初中	工人	团员	
刘青山	男	汉族	湖南	1949	大学	干部	党员	
徐文彬	男	汉族	江西	1956	小学	农民	群众	
郭少华	男	汉族	四川	1944	高中	教师	党员	
李为民	男	汉族	广西	1951	初中	工人	团员	
张国强	男	汉族	云南	1946	大学	教授	党员	
赵子龙	男	汉族	贵州	1954	小学	农民	群众	
陈永年	男	汉族	海南	1941	高中	教师	党员	
周树人	男	汉族	宁夏	1952	初中	工人	团员	
吴大伟	男	汉族	青海	1947	大学	教授	党员	
孙少平	男	汉族	甘肃	1958	小学	农民	群众	
林秀英	女	汉族	新疆	1942	高中	教师	党员	
黄志坚	男	汉族	内蒙古	1953	初中	工人	团员	
刘青山	男	汉族	吉林	1949	大学	干部	党员	
徐文彬	男	汉族	辽宁	1956	小学	农民	群众	
郭少华	男	汉族	黑龙江	1944	高中	教师	党员	
李为民	男	汉族	河北	1951	初中	工人	团员	
张国强	男	汉族	山西	1946	大学	教授	党员	
赵子龙	男	汉族	山东	1954	小学	农民	群众	
陈永年	男	汉族	河南	1941	高中	教师	党员	
周树人	男	汉族	安徽	1952	初中	工人	团员	
吴大伟	男	汉族	浙江	1947	大学	教授	党员	
孙少平	男	汉族	江西	1958	小学	农民	群众	
林秀英	女	汉族	福建	1942	高中	教师	党员	
黄志坚	男	汉族	广东	1953	初中	工人	团员	
刘青山	男	汉族	湖南	1949	大学	干部	党员	
徐文彬	男	汉族	湖北	1956	小学	农民	群众	
郭少华	男	汉族	四川	1944	高中	教师	党员	
李为民	男	汉族	广西	1951	初中	工人	团员	
张国强	男	汉族	云南	1946	大学	教授	党员	
赵子龙	男	汉族	贵州	1954	小学	农民	群众	
陈永年	男	汉族	海南	1941	高中	教师	党员	
周树人	男	汉族	宁夏	1952	初中	工人	团员	
吴大伟	男	汉族	青海	1947	大学	教授	党员	
孙少平	男	汉族	甘肃	1958	小学	农民	群众	
林秀英	女	汉族	新疆	1942	高中	教师	党员	
黄志坚	男	汉族	内蒙古	1953	初中	工人	团员	
刘青山	男	汉族	吉林	1949	大学	干部	党员	
徐文彬	男	汉族	辽宁	1956	小学	农民	群众	
郭少华	男	汉族	黑龙江	1944	高中	教师	党员	

医科学 } 機器・販売・設計・製作  
理工学 }



# 科研精器株式会社

〒852 長崎市坂本町 8 番33号

TEL (0958) 49-1488 (代表)

## メーカー代理業務

株式会社 島津製作所 メディカル  
営業部

松下通信工業(株)電子計測事業部

東洋科学産業株式会社

柴田化学器械工業株式会社

株式会社 東海医理科

(株)アーンスト・ハンセン商会

ガスクロ工業株式会社

他、有名メーカー

常に健康への願いをこめて

医薬品卸問屋  
**伊東薬品株式会社**

本 社 長崎市桶屋町45番地 1

〒850 電話 代表(0958)27-2766

営業所 長崎・佐世保・諫 早・長崎北

# 医用電子機器販売

## 営業品目

- 脳波計
- 心電計
- 筋電計
- ポリグラフ
- 多用途テレメータ
- I.C.U.C.C.Uモニター
- テレモニタ

# 三栄長崎販売株式会社

代表取締役 河原秀人

長崎市坂本町4番3号  
電話 (0958) 45-5795 代表





閉塞性気道疾患用剤

**ホクナリン**<sup>®</sup>ドライシロップ

# 北陸製薬長崎販売株式会社

代表取締役

松 友 雅 夫

事務所 長崎市竹の久保町1の1  
電話 (0958) 61-0181~3番

医科器械・理化学器械・病院諸設備一式

医療と科学に貢献する

 山下医科器械株式会社

佐世保本社	佐世保市湊町3番13号(〒857)	電話(代表)25-2111番
長崎支店	長崎市浜口町12番19号(〒852)	電話(代表)44-3171番
特機事業部	長崎市坂本町4番3号山王ビル(〒852)	電話(代表)49-2540番
佐賀営業所	佐賀市若宮3丁目90-5(〒840-01)	電話(代表)30-6433番
大村営業所	大村市杭出津2丁目51-5(〒856)	電話(代表)3-5101番
島原営業所	島原市栄町8631番(〒855)	電話(代表)3-0246番
福岡営業所	福岡市博多区山王2丁目4-4(〒812)	電話(代表)474-2071番
久留米営業所	久留米市篠山町179-3三島ビル(〒830)	電話(代表)39-0848番
北九州営業所	北九州市小倉北区金田2丁目1-32(〒803)	電話(代表)582-8071番

菊屋第2ビル



身体、めざまなさい。

アルカリ補給〈ポカリスエット〉



ポカリスエット  
POCARI  
SWEAT

大塚製薬

健康に奉仕する

# 藤村薬品株式会社

営業所 長崎。佐世保。五島。武雄  
浦上。大波止。大村。佐賀

地域社会の健康と福祉の向上を願って  
てささやかなお手伝いをいたします。

医薬品・医療品  
農薬・食品の総合商社  
各種臨床検査

# (株)宮崎温仙堂商店

取締役社長 宮崎 六夫

(〒854)  
本社 長崎県諫早市東小路町179  
電話 09572 (2) 3350(代表)

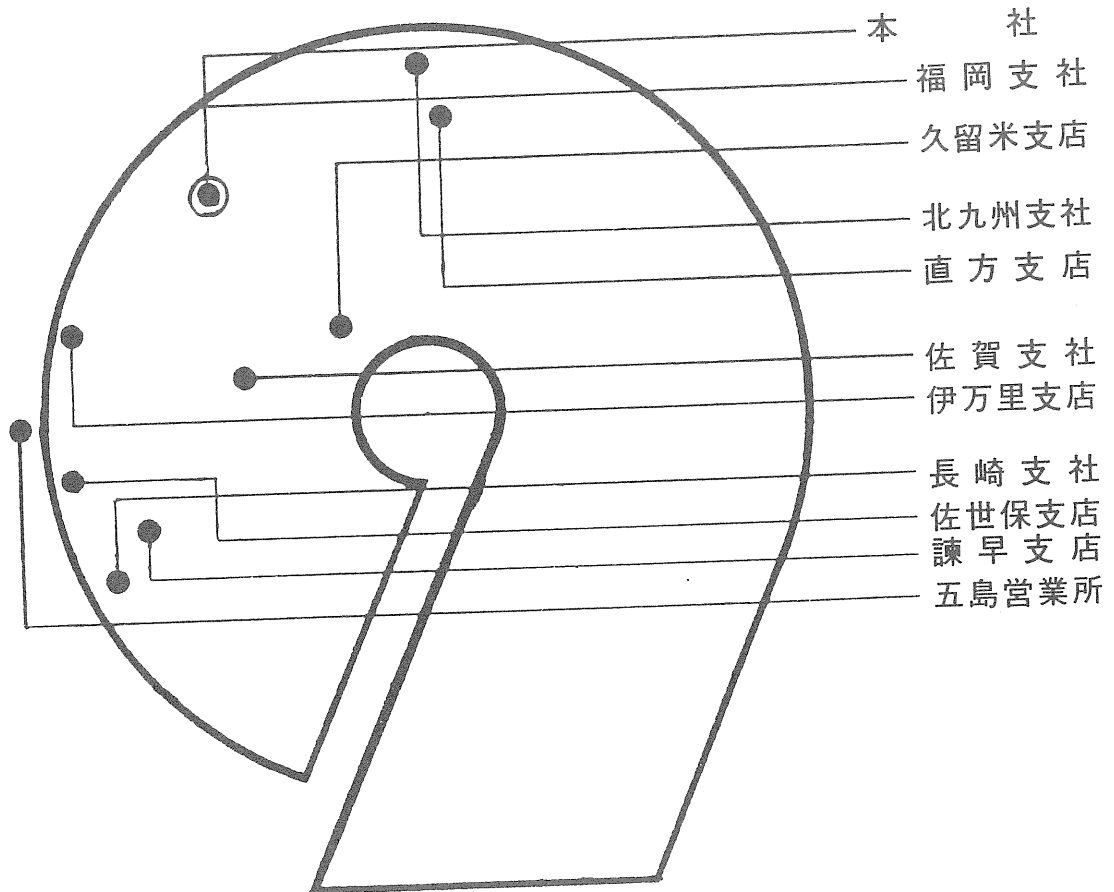
— 事業所 —

長崎. 浦上. 島原. 佐世保. 大村  
五島. 天草. 佐賀. 武雄. 熊本

# かけがえのない生命だから…

(株)丸薬は、優良医薬品・医療機器のトータル  
サプライできょうも、地域医療に奉仕しています。

★(株)丸薬サービスエリア



薬品総合卸



株式会社

丸

薬

医科器械・理化学器械・計量器

# 大栄堂器械店

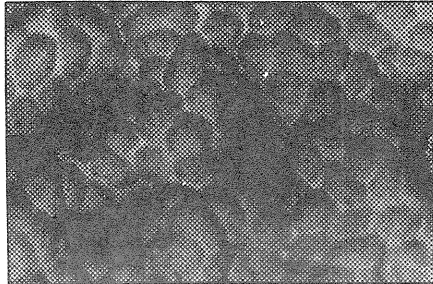
長崎市桶屋町22番地  
電話0958②13565番(代表)

# 基質蛋白保護作用・抗ペプシン作用

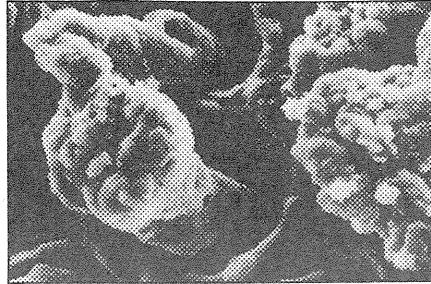
消化性潰瘍治療剤  
**アルサルミン** 顆粒錠

アルサルミンは胃液ペプシンの蛋白分解活性を直接抑えるとともに潰瘍底部や白苔および粘膜エロジオン部分の基質蛋白とも化学的に結合して潰瘍面や炎症部を保護し、潰瘍やピランの治療をすみやかに促進します。

〈基質蛋白保護作用—走査電子顕微鏡による追跡〉



対照例 十二指腸の正常粘膜像強拡大(ラット)

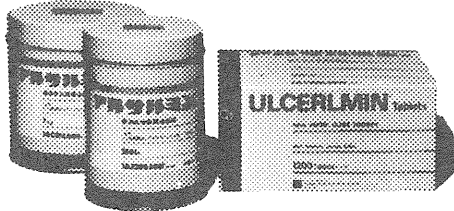


塩酸灌流による表層エロジオン部



アルサルミン投与例 アルサルミン結合部

薬価基準収載



〔適応症〕 胃潰瘍・十二指腸潰瘍

〔包装〕 顆粒：500g、1kg、5kg、1g×1200包、1g×3600包  
錠：1200錠

■使用上の注意は添付文書をご覧ください。



中外製薬

東京都千代田区岩本町1-10-6  
〒101 TEL 03 (862) 8251

CUL 01

各種印刷・文具

**(株) 大村活版**

大村市水主町2丁目704-1

TEL ③ 2028



心と緑の調和をめざす



医薬品総合商社

株式会社

**重陽堂**

長崎市恵美須町3-4 ☎21-3939

パワー&セーブ

# EXCITING TURBO

## シルビアにターボ搭載

(1051T)

これが「ターボチャージャー」のメカニズムだ。  
エンジンの空気吸入口を排気口の上にターボチャージャーを設置し、  
エンジンから排出される排気ガスのエネルギーを利用して  
ターボチャージャー内のタービンを駆動。  
これと同軸上にあるコンプレッサーを回転させ、  
エンジンへより多くの空気を加圧して供給することで  
エンジンの性能を  
同一排気量のまま引きあげてくれるので、その効用は計りしれないものがある。



シルビア ハッチバック ターボZSE






### 日産サニー長崎販売株式会社

カックヨーイナー ヨイサニー

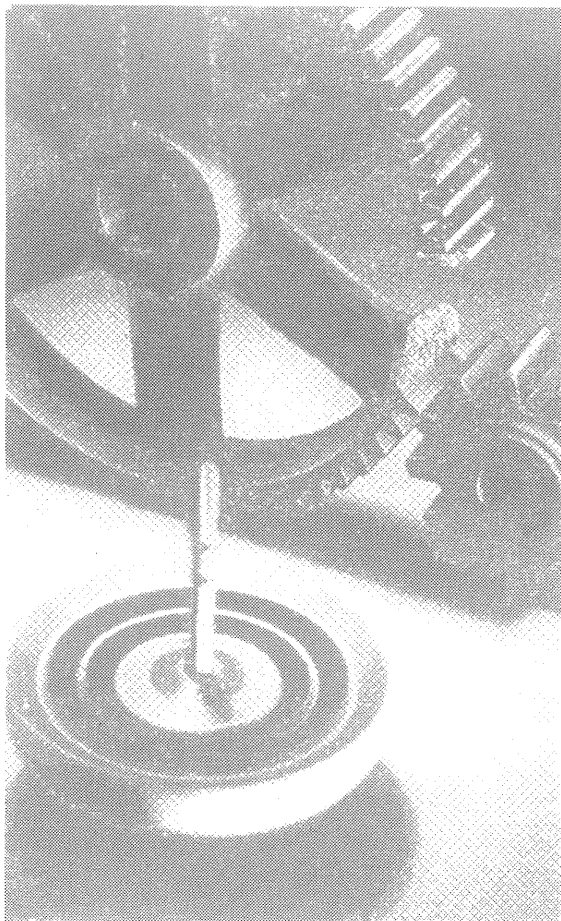
本社 / 長崎市赤迫町542番地1 TEL 0958 (57) 4132

和漢薬を配合した **新発売** **ルル-K錠** かぜの諸症状の緩和に

処方の特長	こんなかぜの症状に
<p style="text-align: center;"><b>生薬3種</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>麻黄エキス</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>桂皮</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>甘草</p> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>+</b> <b>新薬</b></p> <p style="text-align: center;">鎮痛・解熱・消炎・鎮咳・去痰・抗ヒスタミン剤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●熱があったり、身体のふしぶしが痛い</li> <li>●のどがチクチク痛い</li> <li>●かぜのひきはじめの鼻水、鼻づまり、くしゃみなど</li> <li>●咳がはげしく、苦しい</li> <li>●たんが<sup>3</sup>からむ</li> </ul>

●生薬とは

天然の植物成分のこと。中国では、2000年も昔からこれを上手に組み合わせ、漢方薬として「かぜ」などをなおしてきました。汗を出させ熱やさむけ、頭痛に効く麻黄と桂皮、のどの痛みをやわらげる甘草…《ルル-K錠》に配合されている3つの生薬は、かぜの諸症状に効きます。



三共のマイナーランキライザー

# セレナール®

■健保適用品

(一般名: Oxazolam)

*Serenal*

錠 (5mg, 10mg, 20mg) ・カプセル (10mg, 20mg) ・散 (1%, 10%)

適応症

- ①神経症、小児神経症、心臓神経症、胃腸神経症  
自律神経失調症、心身症、高血圧症、動脈硬化症、更年期障害、頭部外傷後遺症、眼精疲労等に伴う不安、緊張、焦燥、抑うつ、易疲労性などの情動障害、自律神経症状及び睡眠障害。
- ②麻酔前投薬

<要指示医薬品> 副作用、使用上の注意は説明書をご覧ください。



三共株式会社

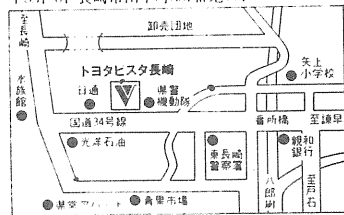
# TOYOTA VISTA

新技術—時代はTOYOTA<sup>®</sup>

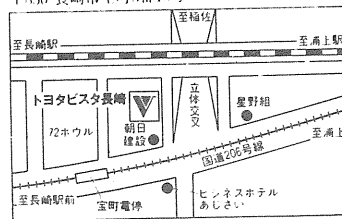


## トヨタビスタ長崎株式会社

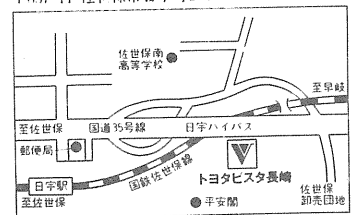
本社・東営業所 ☎0958(39)1001代  
〒851-01 長崎市田中町387番地の1



中央営業所 ☎0958(21)1445代  
〒850 長崎市宇町3番18号



佐世保営業所 ☎0956(34)0123代  
〒857-11 佐世保市日守町2712-5



トヨタビスタは日曜日オープン。

やきとり・から揚げ・他一品料理の店

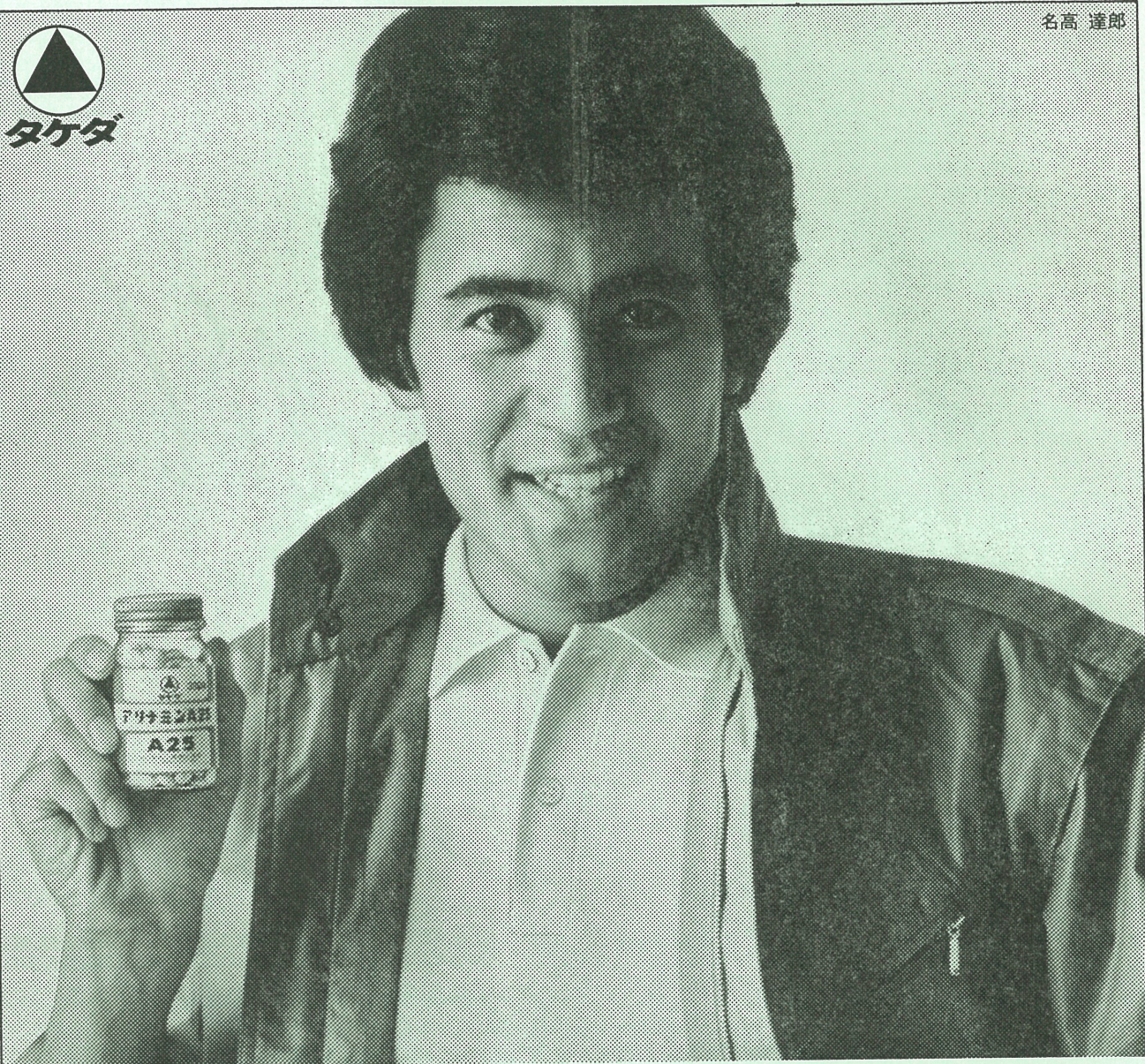
やきとり  
割 烹 **いづみ**

長崎市浜口町 8 ~ 1 1

**学生割引実施中30%引**  
(但し午前0時まで)



タケダ



肉体疲労時の<sup>ビタミン</sup>VB<sub>1</sub>補給に。  
**アリナミン<sup>®</sup>A**

主成分フルスルチアミンは、腸管からの吸収がよく、神経や筋肉によくゆきわたるすぐれた効果があります。

〈効能〉肉体疲労時のビタミンB<sub>1</sub>補給、神経痛・腰痛・肩こり・筋肉痛の緩和、脚気、病中病後・妊娠授乳期のビタミンB<sub>1</sub>補給。

- 説明書をよく読んで正しくお使い下さい。
- くわしくは医師、薬剤師、薬局、薬店にご相談ください。

武田薬品工業株式会社 〒541 大阪市東区道修町2-27

甦る血流

Brendil

- [作用] ①脳および脳局所の血流増加  
②赤血球変形能の改善  
③赤血球酸素解離能の促進  
④脳代謝の賦活

[適応症] 下記疾患にもとづく諸症状の改善  
脳梗塞後遺症、脳出血後遺症

★ご使用に際しては製品に添付の説明書をお読み下さい。

脳循環代謝改善剤 (要指) 健保適用

ブレンディール

一般名：Cinapazide

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

脳循環障害に伴う 頭重感 肩こり 手足のしびれ感 の改善に

